
JD Edwards EnterpriseOne 品質管理 8.11 SP1 PeopleBook

2005 年 8 月

JD Edwards EnterpriseOne 品質管理 8.11 SP1 PeopleBook
SKU E1_APPS811SP1AQM-B JPN
Copyright © 2005, Oracle. All rights reserved.

本プログラム（ソフトウェアおよび文書）には、知的財産が含まれています。本プログラムは、使用および公開に関する制約が明記されたライセンス契約に従うことを条件として提供され、著作権、特許権などの知的財産権法および産業財産権法により保護されています。本プログラムのリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは、他の独立したソフトウェアとの相互運用性の確保に必要とされる範囲または法的に規定された範囲を除き、禁じます。

本書に記載されている情報は、予告なく変更されることがあります。本書の内容に問題があった場合は、当社まで書面によりご通知ください。また、当社は、本書の内容に全く誤りがないことを保証するものではありません。ライセンス契約に明示的に規定された場合を除き、形式、手段（電子的、機械的など）、および目的の如何にかかわらず、本プログラムを複写、複製、または転送することを禁じます。

本プログラムが、アメリカ合衆国政府、またはその代理として本プログラムを使用する者に提供される場合には、以下の条項が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software—Restricted Rights (June 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

本プログラムは、原子力、航空、大量輸送、医療などの本質的に危険を伴う用途を目的として作成されていません。危険を伴う用途に本プログラムを使用する場合の障害対策、バックアップ、および冗長構成などの適切な措置を講じた安全性の確保は、ライセンス供与を受けた者の責任とし、これらの用途に使用された場合のいかなる損失や障害について、当社は一切責任を負いません。

本プログラムには、Web サイトへのリンクが含まれており、サードパーティのコンテンツ、製品、およびサービスへのアクセスが発生する場合があります。サードパーティの Web サイトの運用およびそのコンテンツについて、Oracle は一切責任を負いません。これらのコンテンツの使用上の全ての責任は、使用者が負うこととします。サードパーティから製品またはサービスを購入する場合は、その購入者とサードパーティの間の直接取引になります。(a) サードパーティの製品またはサービスに関する品質、(b) サードパーティとの契約におけるいかなる条件の遵守（製品またはサービスの提供、また、購入された製品またはサービスに関する保証義務など）について、Oracle は一切責任を負いません。サードパーティとの取引に伴ういかなる損失や障害について、Oracle は一切責任を負いません。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Retek は米国 Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。その他の会社名および製品名は所有各社の商標です。

オープンソースの利用について

Oracle は、オープンソースまたはシェアウェアのソフトウェアの使用または配布について責任を負いません。また、これらのソフトウェアまたはドキュメンテーションの使用によるいかなる損失や障害についても一切責任を負いません。Oracle の PeopleSoft 製品には以下のオープンソースソフトウェアが使用される場合があります、これらには下記の免責条項が適用されます。

この製品には、Apache Software Foundation 社 (<http://www.apache.org/>) によって開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright (c) 1999-2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. このソフトウェアは現状のまま提供されており、商品性や特定の目的への適合性に対する保証はもとより、明示的にも暗示的にも、一切の保証はありません。Apache Software Foundation 社およびその共同提供者は、いかなる損害に対しても責任を負いません。これは、その損害が、直接的、間接的、付随的、特殊、典型的、または必然的であるか否かを問いません。また、代替品の購入や代替サービスの利用、有用性およびデータや利益の損失、業務の中断に対する保証もいたしません。本ソフトウェアの使用によるあらゆる損害の発生に対して、契約の記載や、重大な過失などによる権利侵害の有無にかかわらず、また、そのような損害の可能性について報告を受けていたとしても、Apache Software Foundation 社は一切責任を負いません。

目次

はじめに

この PeopleBook について	ix
JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションを使用するにあたって必要な知識.....	ix
JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎.....	ix
印刷・製本されたドキュメンテーションの入手.....	x
印刷・製本されたドキュメンテーションの注文.....	x
追加情報.....	xi
表記規則.....	xi
表記規則.....	xii
注意事項の表示.....	xii
国、地域、業種の表記.....	xiii
通貨コード.....	xiii
ご意見・ご要望をお寄せください.....	xiv
全ての PeopleBook で使用する共通フィールド.....	xiv

まえがき

JD Edwards EnterpriseOne 品質管理 - まえがき.....	xix
対象の製品.....	xix
アプリケーションの基礎.....	xix
この PeopleBook で使用する共通フィールド.....	xix

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne 品質管理 - はじめに.....	1
品質管理の概要.....	1
品質管理のインテグレーション.....	2
品質管理の導入.....	3
グローバル導入の手順.....	3
品質管理導入の手順.....	4

第 2 章

品質管理システムについて.....	5
JD Edwards EnterpriseOne 品質管理の特徴.....	5
試験.....	5

仕様.....	5
優先プロファイル.....	5
試験結果の入力.....	6
情報の確認.....	6
汎用テキストの入力.....	6
JD Edwards EnterpriseOne 品質管理のテーブル.....	7

第 3 章

品質管理の設定.....	9
品質管理の設定について.....	9
事前設定.....	9
システム設定.....	9
品質管理の有効化.....	10
品質管理の有効化に使用するフォーム.....	10
システムレベルでの品質管理の有効化.....	10
品質管理試験の対象とする各事業所の指定.....	10
試験の定義.....	11
試験について.....	12
試験の定義に使用するフォーム.....	13
試験の改訂 (P3701) の処理オプションの設定.....	13
試験の定義.....	14
ユーザー定義コードの入力.....	19
仕様の定義.....	19
仕様について.....	19
事前設定.....	20
仕様の定義に使用するフォーム.....	20
仕様の改訂 (P3702) の処理オプションの設定.....	20
仕様の定義.....	21
優先プロファイルの設定.....	22
優先プロファイルについて.....	22
事前設定.....	23
優先プロファイルの設定に使用するページ.....	24
品質管理優先情報の改訂 (P40318) の処理オプションの設定.....	24
品質管理優先マスターレコードの設定.....	25
優先プロファイルの定義.....	26
表示基準のカスタマイズ.....	28
仕様の分割.....	30
承認プロセスの処理.....	30
承認プロセスについて.....	30

事前設定.....	31
変更の承認に使用するフォーム.....	32
試験、仕様、優先情報の改訂.....	32
改訂の承認.....	33
試験/仕様の検討.....	33
試験/仕様の使途先プログラムについて.....	33
試験/仕様の検討に使用するフォーム.....	33
試験/仕様の検討.....	34
試験結果トレースのための組み込み規則の設定.....	34
品質管理に関する顧客請求指示の設定.....	34
顧客請求指示について.....	34
事前設定.....	34
品質管理に関する顧客請求指示の設定に使用するフォーム.....	35
請求指示を設定する顧客の選択.....	35
品質管理に関する顧客請求指示の設定.....	35
第 4 章	
試験結果の処理.....	37
試験結果の処理について.....	37
試験結果を処理する機能.....	37
試験結果の処理.....	38
試験結果の入力フォーマット.....	38
ロット状況.....	39
サンプルの自動採番.....	40
システムのインテグレーション.....	40
結果を入力する試験の選択.....	42
試験結果を入力する機能について.....	42
事前設定.....	42
結果を入力する試験の選択に使用するフォーム.....	43
優先情報フォーマットでの試験の選択.....	43
オーダー番号フォーマットでの試験の選択.....	45
試験結果の入力.....	46
試験結果について.....	46
試験結果の入力に使用するフォーム.....	47
試験結果の入力.....	48
試験結果に関するテキストの入力.....	48
試験状況の変更.....	49
試験の変更について.....	49
試験状況の変更に使用するフォーム.....	49

試験状況の変更.....	49
追加サンプルの作成.....	50
サンプルについて.....	50
事前設定.....	50
サンプル数の変更使用するフォーム.....	51
試験結果の入力 (P3711) の処理オプションの設定.....	51
サンプル数の変更.....	54
再試験用の追加サンプルの作成.....	54
試験結果の検討.....	54
外部の試験結果の処理.....	55
ロット番号による試験結果の検討.....	55
ロット番号による試験結果について.....	55
ロット番号による試験結果の検討に使用するフォーム.....	56
ロット番号による試験結果の検討.....	56
品目番号と試験 ID による試験結果の検索.....	57
試験結果のトレース.....	58
試験結果のトレース プログラム (P37201) について.....	58
試験結果のトレースに使用するフォーム.....	58
試験結果のトレース.....	58
不合格ロットの管理.....	59
事前設定.....	59
不合格ロットの管理に使用するフォーム.....	59
不合格ロットの管理.....	59
優先プロファイルによる試験済みロットの検討.....	60
試験結果ワークベンチ プログラムについて.....	60
優先プロファイルによる試験済みロットの検討に使用するフォーム.....	61
優先プロファイルによる試験済みロットの検討.....	61

付録 A

EnterpriseOne 品質管理の標準ワークフロー.....	63
EnterpriseOne 品質管理の標準ワークフロー.....	63
試験定義承認.....	63
仕様定義承認.....	64
品質管理優先情報承認.....	64

付録 B

EnterpriseOne 品質管理レポート.....	67
品質管理のレポート.....	67

EnterpriseOne 品質管理のレポート.....	67
EnterpriseOne 品質管理の主要レポート.....	68
試験定義レポート (R37410) の処理オプション.....	68
仕様レポート (R37415) の処理オプション.....	69
品目試験仕様 (R37420) の処理オプション.....	70
R37470 - 試験結果ワークシート レポート.....	70
試験結果ワークシート (R37470) の処理オプション.....	70
R37900 - 分析証明書抽出レポート.....	71
分析証明書抽出 (R37900) の処理オプション.....	71
R37901 - 製品試験レポート.....	73
製品試験レポート (R37901) の処理オプション.....	73
EnterpriseOne 用語集.....	75
索引	87

この PeopleBook について

PeopleBook には、JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの導入と使用に必要な情報が提供されています。

ここでは、以下の事項について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションを使用するにあたって必要な知識
- JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎
- 印刷・製本されたドキュメンテーションの入手
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見・ご要望について
- PeopleBook で使用する共通フィールド

注: PeopleBook には、システムで使用されている全てのフィールドについて説明されているわけではありません。アプリケーションで共通して使用される主なフィールドは、共通フィールドとしてまとめて説明しています。全てのアプリケーションで共通するフィールドはこの PeopleBook に、各アプリケーションで共通するフィールドは、それぞれの製品ライン、PeopleBook、またはその章やセクションごとに、共通フィールドとしてまとめて説明されています。それ以外に説明が必要だと思われるものについては、処理や業務を実行する具体的なページの説明と併せて、フィールドやチェック ボックスの説明をそれぞれ記載しています。

JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションを使用するにあたって必要な知識

この PeopleBook の内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基本的な使い方を熟知している必要があります。

また、JD Edwards EnterpriseOne の入門トレーニング コースを少なくとも 1 つ修了していることが推奨されます。

この PeopleBook では、ユーザーが JD Edwards EnterpriseOne システムを操作でき、メニューやページ、フォームなどを使って情報を追加、更新、削除できることを前提としています。また、Web ブラウザと、Microsoft Windows または Microsoft Windows NT の操作に習熟していることも必要です。

ここでは、JD Edwards EnterpriseOne システムを操作できることを前提としているため、操作手順についての説明は省略しています。この PeopleBook では、JD Edwards EnterpriseOne システムを効果的に使用するために必要な情報や、JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションを導入するために必要な情報を提供します。

JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎

各アプリケーションの PeopleBook では、JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

また、システムを設定したり設計するときに必要な情報が、製品ラインで共通する『JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 PeopleBook』に書かれている場合もあります。ほとんどの製品ラインについて『JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 PeopleBook』が用意されています。それぞれの PeopleBook のまえがきに、関連する『JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 PeopleBook』の情報が記載されています。

『JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 PeopleBook』で取り上げている項目は、製品ラインのどのアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものばかりです。JD Edwards EnterpriseOne システムを導入する場合、製品ラインの中から 1 つのアプリケーションだけを導入する、いくつかのアプリケーションを組み合わせて導入する、または製品ライン全体を導入する、といういずれの場合でも、この『JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎 PeopleBook』に書かれている内容を十分に理解しておくことが必要です。基礎的な内容を理解することが、導入タスクに着手する出発点となります。

印刷・製本されたドキュメンテーションの入手

このセクションでは、印刷・製本されたドキュメンテーションの注文について説明します。

印刷・製本されたドキュメンテーションの注文

PeopleBooks CD-ROM に収録されているドキュメンテーションは、印刷・製本された形のものも用意されています。印刷・製本されたドキュメンテーションは、以下のいずれかの方法でご注文いただけます。

- Web サイト
- 電話（米国およびカナダのみ）
- 電子メール

Web サイト

PeopleSoft の Web サイトである Customer Connection から注文できます。Ordering PeopleBooks リンクをクリックすると、PeopleBooks Press の Web サイトにアクセスすることができます。このサイトは、PeopleSoft と印刷会社 MMA Partners 社が共同で運営しています。ご注文の際、クレジットカード、郵便為替、銀行小切手、または注文書をご利用いただけます。

電話（米国およびカナダのみ）

877 588 2525 (MMA Partners 社) までご連絡ください。

電子メール

peoplebookspress@mmapartner.com (MMA Partners 社) までご連絡ください。

関連項目:

PeopleSoft Customer Connection
<https://www.peoplesoft.com/corp/en/login.jsp>

追加情報

PeopleSoft Customer Connection Web サイトから、以下の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	[Updates + Fixes]
ビジネスプロセス マップ	[Support]、[Documentation]、[Business Process Maps]
データモデル	[Support]、[Documentation]、[Data Models]
エンタープライズ インテグレーション ポイント (EIP) のカタログ	[Support]、[Documentation]、[Enterprise Integration Point (EIP) Catalog]
ハードウェア要件とソフトウェア要件	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Implementation Guide]、[Implementation Documentation and Software]、[Hardware and Software Requirements]
インストール ガイド	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Implementation Guide]、[Implementation Documentation and Software]、[Installation Guides and Notes]
PeopleBook ドキュメンテーションのアップデート	[Support]、[Documentation]、[Documentation Updates]
サポートポリシー	[Support]、[Support Policy]
製品出荷予定	[Support]、[Roadmaps + Schedules]
リリースノート	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Upgrade Guide]、[Upgrade Documentation and Software]、[Release Notes]
テーブルのロード順序	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Implementation Guide]、[Implementation Documentation and Software]、[Table Loading Sequences]
トラブルシューティング情報	[Support]、[Troubleshooting]
アップグレード関連のドキュメンテーション	[Implement, Optimize + Upgrade]、[Upgrade Guide]

表記規則

このセクションでは、以下の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

表記規則

PeopleBook は、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCode の関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しで、そのまま記述すべき PeopleCode の予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCode の構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー+キー	キーを組み合わせる操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら2番目のキーを押すという意味です。たとえば、Alt+W は、Alt キーを押しながら W キーを押すことを表します。
Monospace font (固定幅のフォント)	PeopleCode のプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
...(省略記号)	PeopleCode の構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ }(中かっこ)	PeopleCode の構文で、2つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒 () で区切られています。
[](角かっこ)	PeopleCode の構文で、省略できる要素を示します。
&(アンパサンド)	PeopleCode の構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。 また、PeopleCode の変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

注意事項の表示

PeopleBook では、注意事項が以下のような形式で示されています。

注

JD Edwards EnterpriseOne システムを使って作業するときに注意すべき事項が書かれています。

注: 注意事項は、このような形式で示しています。

システムが正しく機能するために必ず守るべき大切な事柄は、“重要:”と示されています。

重要: 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

警告

JD Edwards EnterpriseOne システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

警告: 警告は、このような形式で示しています。

相互参照

相互参照は、“参照:”、または“関連項目:”という形で示しています。すぐ前で説明した情報に関連する他のドキュメンテーションが相互参照として示されています。

国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常はセクションの見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。日本語版では対応していない機能に関する記述については、英語で表記されています。

特定の国を対象とした見出しの例: 「従業員の採用 (FRA)」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「減価償却の設定 (中南米)」

国の表記

国際標準化機構 (ISO) が定める国コードを使って表記しています。

参照: この PeopleBook について、「ISO 標準の国コードおよび通貨コード」、「ISO 標準の国コード」

地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

業種の表記

業種を表す名称か略称を使って表記しています。以下に例を示します。

- USF (米国連邦政府)
- E&G (教育/公的機関)

通貨コード

金額は、ISO が定める通貨コードを使って表記しています。

参照: この PeopleBook について、「ISO 標準の国コードおよび通貨コード」、「ISO 標準の通貨コード」

ご意見・ご要望をお寄せください

PeopleBook についてのご意見、ご要望を下記にお寄せください。

〒154-0005
東京都世田谷区三宿 1-13-1
東映三宿ビル 5 階

日本オラクルインフォメーションシステムズ株式会社
エンタープライズ ランゲージ サービス マネジャー宛

TEL : 03-5251-8768

または、ETSJPN_US@ORACLE.COM へ電子メールでご連絡ください。

いただいた電子メール全てにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

全ての PeopleBook で使用する共通フィールド

以下 Enterprise の用語です。

指定日	どの日付までのデータが、レポートまたはプロセスの対象となるかを指定します。
ビジネスユニット	業務上、区分された上位レベルの組織の ID です。ビジネスユニットを利用して、1 つの大きな組織の中に地域別または部門別に複数のユニットを定義することができます。
名称	30 文字までのテキストを入力できます。
有効日	テーブル行が有効になる日付、またはアクションが開始される日付です。たとえば、元帳を 6 月 30 日に締める場合、元帳締めの有効日は 7 月 1 日となります。データを表示、変更できる時期も有効日により管理されます。この情報を使用するページやバッチ処理では、現在行が使用されます。
1 回限り、常時、実行しない	“1 回限り” を選択すると、次のバッチ処理実行時にリクエストが実行されます。バッチ処理が実行されると、処理頻度は自動的に“実行しない”に設定されます。 “常時” を選択すると、バッチ処理が実行されるたびに毎回リクエストが実行されます。 “実行しない” を選択すると、バッチ処理が実行されてもこのリクエストは実行されません。
プロセス モニター	このリンクをクリックすると、プロセス リスト ページに移動して、送信したプロセス リクエストのステータスを確認できます。
レポート マネージャ	このリンクをクリックすると、レポート リスト ページに移動して、レポート内容の表示、レポート ステータスの確認、レポートと配信リストの詳細を表示する内容詳細メッセージの照会を行うことができます。

リクエスト ID	レポートまたはプロセスの選択条件のセットを表す ID です。
実行	このボタンをクリックしてプロセス リクエスト ページにアクセスすると、プロセスまたはジョブの実行場所、およびプロセスの出力フォーマットを指定できます。
セットID	コントロール テーブル情報のセット、つまり、テーブルセットを表す ID です。テーブルセットを使用すると、コントロール テーブル情報や処理オプションをビジネス ユニット間で共有できます。これにより、データの重複やシステムのメンテナンス作業を減らすことができます。ビジネスユニット内のレコード グループにセットID を割り当てると、レコード グループ内の全てのテーブルは、そのビジネスユニットと、そのレコード グループに同じセットID を割り当てているその他のビジネス ユニットとの間で共有されます。たとえば、複数のビジネスユニットで共通する職務コードのグループを定義して共有することができます。職務コードを共有する各ビジネス ユニットには、そのレコードについて同じセットID が割り当てられます。
略称	15 文字までのテキストを入力できます。
ユーザー ID	トランザクションを実行するユーザーを表す ID です。
以下 EnterpriseOne の用語です。	
住所番号	エンティティのマスター レコードを識別する固有の番号です。住所番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナント、などの ID として使用できます。アプリケーションによっては、ページ上の住所番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員番号、応募者番号、加入者番号、などに相当する場合があります。
仮定通貨コード	取引金額を表示する際に使用する通貨を指定する 3 文字のコードです。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。
バッチ番号	システムによって処理される取引のグループを識別する番号です。入力ページでは、ユーザーが手動でバッチ番号を割り当てるか、自動採番プログラム (P0002) によって自動的に割り当てることもできます。
バッチ日付	バッチが作成された日付です。このフィールドを空白のままにすると、自動的にシステム日付がバッチ日付として指定されます。
バッチ状況	<p>バッチの転記状況を示すユーザー定義コード (UDC) 98/IC の値を表示します。有効値は以下のとおりです。</p> <p>空白: バッチが転記されていないか、承認待ちです。</p> <p>A: バッチの転記が承認され、貸借も一致していますが、まだ転記されていません。</p> <p>D: バッチが正常に転記されました。</p> <p>E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。</p> <p>P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードが E に変更されます。</p>

U: ほかのユーザーがこのバッチを使用しているか、バッチが開かれている間に電源障害が発生したために、バッチが一時的に使用できなくなっています。

事業所	倉庫、作業、プロジェクト、作業所、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードです。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
ビジネスユニット	個別に費用がトラッキングされる各エンティティを表すコードです。システムによっては、事業所とも呼ばれます。
カテゴリコード	各カテゴリを表すコードです。カテゴリコードは、ユーザー定義コードで、トラッキングや申告など、組織の業務要件に合わせてカスタマイズできます。
会社	組織、資金、報告主体などを識別するコードです。会社コードは、F0010に定義済みである必要があり、このコードで表される単位ごとに、完全な貸借対照表を備えている必要があります。
通貨コード	取引の通貨を表す3文字のコードです。EnterpriseOneでは、国際標準化機構 (ISO) に準拠した通貨コードを提供しています。通貨コードは F0013 テーブルに格納されています。
伝票会社	伝票に関連付けられた会社番号です。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付と併せて使用され、当初伝票を一意に識別します。 会社と会計年度によって次の番号を割り当てる場合、この会社番号に基づいて、その会社の次の番号が自動的に抽出されます。 同じ伝票番号と伝票タイプが複数の当初伝票に割り当てられていても、伝票会社番号を使用すれば、目的の当初伝票を表示することができます。
伝票番号	伝票、請求書、仕訳入力、タイムシートなどの当初伝票を識別する番号です。入力ページでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、自動採番プログラムによって自動的に割り当てることもできます。
伝票タイプ	取引のソースおよび目的を表すユーザー定義コード 00/DT の値 (2文字) です。伝票、請求書、仕訳入力、タイムシートなどがあります。EnterpriseOneでは、伝票タイプに以下のプレフィックスが予約されています。 P: 買掛伝票 R: 売掛伝票 T: 時間/給与伝票 I: 在庫伝票 O: 購買伝票 S: 受注伝票
有効日付	住所、品目、取引、レコードなどがアクティブになる日付です。このフィールドは、プログラムによって意味が変わります。たとえば、以下のような日付を表すことがあります。 <ul style="list-style-type: none">• 住所変更が有効になる日付• 賃貸契約が有効になる日付• 価格が有効になる日付• 為替換算レートが有効になる日付

- 税率が有効になる日付

会計期間、会計年度

元帳の期間、年度を表す番号です。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社固定情報プログラム (P0010) で定義された現在の会計期間と会計年度が自動的に使用されます。

元帳日付

取引の転記先の会計期間を示すための日付です。取引に対してこの日付が入力されると、その会社に割り当てられている会計期間パターンと比較して、適切な会計期間および会計年度が抽出されます。日付の検証も併せて行われます。

JD Edwards EnterpriseOne 品質管理 – まえがき

この章では、以下の内容について説明します。

- 対象の製品
- アプリケーションの基礎
- この PeopleBook で使用する共通フィールド

対象の製品

この PeopleBook には、以下の製品についての情報も記載されています。

- JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne 調達管理
- JD Edwards EnterpriseOne 製造管理 – 製造現場
- JD Edwards EnterpriseOne 受注管理

アプリケーションの基礎

システムの設定や設計に必要な基本情報は、この PeopleBook の姉妹編とも言える以下の PeopleBook に記載されています。

- 『JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 8.11 SP1 PeopleBook』
- 『JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理 8.11 SP1 PeopleBook』
- 『JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 8.11 SP1 PeopleBook』

この PeopleBook で使用する共通フィールド

合格 %、合格数量

サンプルが品質検査で合格となるために、合格する必要がある試験の割合を示します。このフィールドの値は、[サンプル%] の値が 100 以外の場合に使用されます。[合格%] の値を使用するには、試験の定義ごとに所定のフィールドで入力を行う必要があります。有効値は以下のとおりです。

空白: [合格数量] の値を適用する。

値を指定: 表示/評価を実行する。

許容最大値

合格となる試験結果の最大値を入力します。

許容最小値

合格となる試験結果の最小値を入力します。

顧客 No.	従業員、応募者、関連会社、顧客、仕入先、テナント、所在地などの、住所録システムの項目を識別する番号を入力します。
品目 No.	品目に割り当てられている番号を入力します。書式には、略式、明細、第3品目番号があります。
サンプル数	試験の対象となるサンプル数を入力します。
優先最大値	<p>推奨される試験結果（優先値）の最大値を入力します。この値は、許容最大値以下である必要があります。優先最大値は、顧客の要求よりも詳細で厳格な品質評価を行う際に使用します。</p> <p>分析証明書プログラムの処理オプションを使用すると、分析証明書レポートに優先値を印刷することができます。試験の改訂プログラムの処理オプションを使用すると、各優先値と照合を行いサンプルを評価することができます。</p>
優先最小値	<p>推奨される試験結果（優先値）の最小値を入力します。この値は、許容最小値以上である必要があります。優先最小値は、顧客の要求よりも詳細で厳格な品質評価を行う際に使用します。</p> <p>分析証明書プログラムの処理オプションを使用すると、分析証明書レポートに優先値を印刷することができます。試験の改訂プログラムの処理オプションを使用すると、各優先値と照合を行いサンプルを評価することができます。</p>
試験の印刷	<p>分析証明書に試験を印刷するかどうかを指定するコードを入力します。有効値は以下のとおりです。</p> <p>0: 試験は分析証明書に印刷されません。</p> <p>1: 全ての試験データが分析証明書に印刷されます。</p> <p>2: 試験結果の平均値レコードのみ、分析証明書に印刷されます。</p> <p>3: 最新の試験データが分析証明書に印刷されます。最新の試験データとは、試験結果の改訂で最後に入力した試験結果レコードです。</p>
属性	試験対象の品目の属性を入力します。
サンプル %	<p>オーダー数量に対するパーセンテージを入力します。この値により、試験結果の改訂で作成されるサンプルの数が決まります。たとえば、[サンプル%]の値が50、オーダー数量が10の場合、[試験結果の改訂]では5つのサンプルが作成されます。作成するサンプルの数を制御するには、このフィールドまたは[サンプル数]フィールドのいずれかを使用します。このフィールドは、試験結果の改訂のオーダーモードでのみ使用できます。</p> <p>[サンプル%]の値が100の場合、オーダーの全てのユニットの試験が必要です。ロットが合格となるには、オーダーの全てのユニットが合格する必要がありますため、[合格数量]、[合格%]は使用できません。</p>
順序	有効な環境の表示順序を設定するための連番を入力します。
目標値	試験結果の範囲内で、推奨される、または目標とする試験結果の値を入力します。目標値に対する検証は行われなため、これは参照専用のフィールドとなります。
試験方法	品質試験の実行方法についての説明を入力します。試験方法に関する情報は、自社の品質管理部門、顧客の双方にとって有益です。以下に例を示します。

試験: 粘性

方法: RVF #4 @10RPM

詳細: RVF 粘度計での粘性試験をスピンドル 4 を使用して 10 回転/分の回転速度で実行する。

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne 品質管理 – はじめに

この章では、以下の内容について説明します。

- 品質管理の概要
- 品質管理のインテグレーション
- 品質管理の導入

品質管理の概要

総合的品質管理 (TQM)、継続的改善、品質保証、品質管理システムなどの用語は、品質評価という概念に関係しています。これらの用語は、多種多様な産業において使用されます。企業が高度な品質管理システムを使用している場合でも、単純なデータ収集プログラムを使用している場合でも、目指す目標に変わりはありません。それは、最も適切なタイミングで、かつ、最も費用効率の高い方法で、品質に対する要望に応え、期待される水準かそれ以上の品質を達成するということです。

JD Edwards EnterpriseOne 品質管理システムは、TQM プログラムの支援に使用することができます。このシステムは、社内の品質基準を満たし、かつ、顧客の要求に応えるために必要となるデータの収集、検証、管理に関する統合された柔軟なソリューションを提供します。

JD Edwards EnterpriseOne 品質管理システムは、製品の材質に関するデータの記録や管理に役立てることができます。一貫性があり管理のゆきとどいた方法によって、品質試験の結果を記録したり、製造工程をモニタリングして製品の品質を確保することができます。

品質管理システムでは、以下の設定を実行して、ビジネスにおける固有の試験のニーズに対応するためのカスタマイズを行うことができます。

- 品質試験の設定
- 仕様による試験のグループ化
- 特定の顧客の品目に対して実行する試験の定義
- 分析証明書が必要とする顧客の定義

ビジネス サイクルにおける適切なタイミングで、サンプルを収集し品質試験を実行します。その後、JD Edwards EnterpriseOne 品質管理システムを使用して、品目に関する試験結果を入力し、検討します。試験結果の例としては、糖分濃度を検査しているソフトドリンクのサンプルでの 0.20 パーセントという濃度の結果などが挙げられます。

生産する材料が規格を満たしているかどうかを、購買サイクル、受注オーダー入力サイクル、作業オーダー サイクルなどのビジネス フローにおけるさまざまなタイミングで検証することができます。試験結果やレポートを印刷して、意思決定に活用することができます。また、必要に応じて是正措置を講じる際にも役立ちます。

製品の品質の詳細なモニタリングをサポートする品質管理システムを導入することにより、次のような成果を達成できます。

- 製品の品質に関する迅速な意思決定により、再作業や仕損にかかる費用を削減する。
- 材料検査、データ収集、欠陥材料に対する再作業や修繕などに費やされる時間を最小化することにより、労務費を削減する。
- 問題のありそうな構成品を出荷前に識別することにより、出張作業を削減する。
- 質の低い構成品を識別することにより、材料の仕損にかかる費用を削減する。
- 品質の全体的な向上により、顧客満足度を高める。

品質管理のインテグレーション

品質管理システムは、次に示すシステムの機能と緊密に連携して動作します。

- 在庫管理
- 調達管理
- 製造現場管理
- 受注管理

在庫管理

在庫管理システムでロットを処理する場合、ロット番号を使用して試験結果を検索し、どのロットが品質試験で合格/不合格となっているかを確認することができます。ロット別在庫状況プログラム (P41280) またはロット マスターの改訂プログラム (P4108) を使用して在庫管理から試験結果照会を使用すると、入力された試験結果と完全に同一の内容を参照できます。

調達管理

調達管理では、次に示すプログラムによって、品質管理システムへのアクセスが行われます。

- 入荷確認プログラム (P4312)
- 入荷工程の移動/処分プログラム (P43250)

製造現場管理

製造現場管理では、次に示すプログラムによって、品質管理システムへのアクセスが行われます。

- 製造作業オーダー処理プログラム (R31410)
- 作業オーダー完了プログラム (P31114)
- スーパー バックフラッシュ プログラム (P31123)
- 作業オーダー時間入力プログラム (P311221)

受注管理

受注管理システムを使用している場合、顧客請求指示によって、顧客に分析証明書を提出する必要があるかどうかを指定します。顧客請求指示を設定して、特定の顧客への分析証明書を出荷が確定した時点で自動的に作成することができます。

受注管理システムでロットを処理する場合、ロット番号を使用して試験結果を検索し、どのロットが品質試験で合格/不合格となっているかを確認することができます。

受注管理システムを使用している場合、出荷確認 (P4205) プログラムによって品質管理システムにアクセスすることができます。

品質管理の導入

このセクションでは、品質管理システムの導入に必要な手順の概要を説明します。

導入プランの作成段階では、導入のガイドやトラブルシューティング情報など、JD Edwards EnterpriseOne で提供される全ての情報を活用してください。これらのリソースの一覧は、『この PeopleBook について』のまえがきに、各リソースの最新バージョンの入手方法と共に掲載されています。

グローバル導入の手順

品質管理システムを導入する前に、いくつかのグローバル導入の手順を実行する必要があります。グローバル導入は、品質管理固有の手順ではありません。会社で使用する機能に応じて、一部の手順は省略できます。次の表は、EnterpriseOne の全製品に対するグローバル導入の推奨手順を示しています。

手順	参照
1. グローバル UDC テーブルを設定します。	PeopleSoft EnterpriseOne Tools 8.95 Peoplebook: Foundation
2. 会計期間パターンを設定します。	
3. 会社を設定します。	
4. ビジネスユニットを設定します。	
5. 自動採番を設定します。	
6. 勘定科目と勘定科目表を設定します(省略可)。	
7. 一般会計固定情報を設定します。	
8. 通貨コードや為替レートなどの多通貨処理を設定します。	
9. 元帳タイプ規則を設定します(省略可)。	
10. 住所録レコードを設定します。	
11. デフォルト事業所およびプリンタを設定します。	PeopleSoft EnterpriseOne Tools 8.95 PeopleBook: Foundation
12. 事業所固定情報を設定します。	
13. 流通/製造 AAI(自動仕訳)を設定します。	
14. 伝票タイプを設定します。	
15. 製造現場カレンダーを設定します。	
16. 製造固定情報を設定します。	

品質管理導入の手順

次の表は、品質管理システムの導入手順を示しています。

手順	参照
1. 品質管理を有効化します。	第 3 章、「品質管理の設定」、「品質管理の有効化」、10ページ
2. 試験を定義します。	第 3 章、「品質管理の設定」、「試験の定義」、11ページ
3. ユーザー定義コードを入力します。	第 3 章、「品質管理の設定」、「ユーザー定義コードの入力」、19ページ
4. 仕様を定義します。	第 3 章、「品質管理の設定」、「仕様の定義」、19ページ
5. 優先プロファイルを設定します。	第 3 章、「品質管理の設定」、「優先プロファイルの設定」、22ページ
6. 試験結果トレースのための組み込み規則を設定します。	第 3 章、「品質管理の設定」、「試験結果トレースのための組み込み規則の設定」、34ページ
7. 品質管理に関する顧客請求指示を設定します。	第 3 章、「品質管理の設定」、「品質管理に関する顧客請求指示の設定」、34ページ

第 2 章

品質管理システムについて

この章では、以下の概要について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne 品質管理の特徴
- JD Edwards EnterpriseOne 品質管理のテーブル

JD Edwards EnterpriseOne 品質管理の特徴

このセクションでは、以下の概要について説明します。

- 試験
- 仕様
- 優先プロファイル
- 試験結果の入力
- 情報の確認
- 汎用テキストの入力

試験

ビジネス サイクルで実行する試験は、数に制限なく設定できます。それぞれの試験に対して、最小値、最大値、目標値の他、数字/英数字のどちらの書式で試験結果の期待値を出力するかを定義します。また、各試験で採取するサンプルの数やサンプル サイズを定義することもできます。

試験の例としては、寸法公差、色、力価、純度、目視検査、硬度、耐性などが挙げられます。

仕様

仕様によって、同一のカテゴリに属する試験や、同時に実行する試験をグループ化することができます。例としては、機械関連、目視関連、電子関連の仕様などが挙げられます。

優先プロファイル

試験や仕様を定義すると、優先プロファイルの作成が可能になります。優先プロファイル（優先情報とも呼ばれます）によって、品目、品目グループ、顧客、顧客グループに関して、どの試験をいつ実行するかが判断されます。優先プロファイルを使用して、顧客および顧客が注文した品目の双方に関して、製品試験のカスタマイズを行うことができます。

たとえば、ある顧客が試験に対して別の顧客よりも厳格な許容値を要求している場合に、優先情報を使用します。優先情報により、該当する試験をグループ化して、顧客別にカスタマイズすることが可能になります。

試験結果の入力

試験の処理は、他のシステムのプログラムから行うことも、品質管理システムから直接行うこともできます。試験結果を入力すると、試験結果が最小値と最大値で規定される範囲内にあるかどうかの評価され、それぞれのロットの状況として合格または不合格が設定されます。

試験結果は、次に示す製造/流通プロセスの各段階で入力することができます。

- 購買オーダー品目の入荷の入力時
- 購買オーダーと作業オーダーに関する入荷工程
- 生産完了後の在庫への品目の移動時
- 作業時間や作業量の入力時
- 出荷や梱包の確認時
- ECS のバルク/パッケージ製品の積荷確認時
- 受注オーダーの入力時
- ロットの確認時

情報の確認

品質管理システムでは、試験や仕様を品目および事業所別に印刷できます。試験結果はロット番号および受注オーダー番号別に印刷できます。

試験結果の情報は、顧客に対する分析証明書 (COA) を印刷する際に使用できます。COA には、顧客に販売されたロットに関して実行された全ての試験内容および試験結果データが記載されています。

試験が必要な品目や、再分類時に名称が変更された品目に関しては、製品レコードでロットの確認やトレースを行うことができます。また、品質試験で不合格となったロットを確認することもできます。

汎用テキストの入力

試験の処理では、汎用テキストを使用して追加情報を入力することができます。

汎用テキストは、試験に関係する次のような情報に関して、ツール、試験装置、サンプリング方法を記述する場合に使用します。

- 品目
- 作業オーダーの作業工程指示
- 作業オーダー部品リスト
- 試験エントリ
- 優先プロファイル
- 仕様エントリ
- 試験結果

JD Edwards EnterpriseOne 品質管理のテーブル

JD Edwards EnterpriseOne 品質管理では、以下のテーブルが使用されます。

テーブル名	説明
F3701 テーブル	試験 ID、記述、試験タイプ、最小値および最大値、目標値、有効期間によって構成される試験定義が格納されます。その他、分析証明書に試験を印刷するかどうか、汎用テキストの印刷を行うかどうかを指定する情報も格納されます。
F3702 テーブル	仕様についての説明や有効期間が格納されます。
F37021 テーブル	仕様内でグループ化されている個々の試験に関する情報が格納されます。
F3703 テーブル	不合格となった試験のレコードが格納されます。
F3711 テーブル	在庫、作業オーダー、購買オーダー、受注オーダーに含まれる品目およびロット番号に関する試験結果が格納されます。
F3711Z1 テーブル	ラボラトリ情報管理システム (LIMS) からアップロードされた試験結果が格納されます。
F37900 テーブル	分析証明書や製品試験レポート (R37901) に印刷される試験結果が格納されます。
F40318 テーブル	品目、品目グループ、顧客、顧客グループで必要とされる試験や仕様を特定します。
F40318R テーブル	受注オーダーで優先情報が使用された回数に関する履歴情報が格納されます。

第 3 章

品質管理の設定

この章では、品質管理の設定の概要と、以下の方法について説明します。

- 品質管理の有効化
- 試験の定義
- ユーザー定義コードの入力
- 仕様の定義
- 優先プロファイルの設定
- 承認プロセスの処理
- 試験/仕様の検討
- 試験結果トレースのための組み込み規則の設定
- 品質管理に関する顧客請求指示の設定

品質管理の設定について

このセクションでは、事前設定およびシステム設定について説明します。

事前設定

品質管理を設定する前に、以下の作業を行う必要があります。

- ロット単位で品質評価を行う品目に対し、ロット管理を有効化します。
- 品質評価を行う各品目について、試験に含める特性を決定します。

システム設定

品質管理は、ビジネスにおける特定の試験のニーズに対応できるようにカスタマイズが可能です。品質試験の設定後、仕様に基づいて試験をグループ化することができます。また、特定の顧客に関してどの試験を実行するかを定義したり、どの顧客に対して分析証明書が必要であるかを定義することができます。

品質管理を使用するには、あらかじめ以下の項目を設定しておく必要があります。

- 事業所固定情報
- 試験
- (省略可) 仕様
- 優先プロファイル

上記のうち、事業所固定情報の設定は在庫管理で実行しますが、それ以外の全ての設定は品質管理で実行します。

注: 品質管理を使用するには、システム レベルおよび事業所レベルで有効化を行う必要があります。

品質管理の有効化

このセクションでは、品質管理の有効化の概要と、以下の方法について説明します。

- システム レベルでの品質管理の有効化
- 品質管理試験の対象とする事業所の指定

品質管理の有効化に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[EnterpriseOne システム制御 - 改訂]	W99410B	[品質管理セットアップ] (G3741)、[品質管理のアクティブ化] [EnterpriseOneシステム・コントロールの処理] フォームで、データ項目が SY37 のレコードを選択して、[選択] ボタンをクリックします。	システムレベルで EnterpriseOne 品質管理を有効化します。
[事業所固定情報]	W41001H	[在庫管理セットアップ] (G4141)、[事業所固定情報] [事業所固定情報の処理] フォームで、事業所を選択して、[選択] ボタンをクリックします。	品質管理試験の対象とする各事業所の指定を行います。

システム レベルでの品質管理の有効化

[EnterpriseOne システム制御 - 改訂] フォームにアクセスします。

システム レベルで品質管理を有効化するには、次の手順に従います。

1. [はい] を選択して、[OK] をクリックします。
[はい] を選択するということは、このモジュールがシステムにインストール済みであることを意味します。
2. [EnterpriseOneシステム・コントロールの処理] フォームで、[検索] をクリックします。
3. [使用モジュール] オプションが [はい] になっていることを確認して、[閉じる] をクリックします。

品質管理試験の対象とする各事業所の指定

[事業所固定情報] フォームにアクセスします。

事業所固定情報 - 事業所固定情報			
OK(O) キャンセル(L) フォーム(F) ツール(T)			
事業所コード	M30	Eastern Manufacturing Center	
住所No.	6074	Eastern Manufacturing Plant	
略式品目番号の識別記号	/	<input checked="" type="checkbox"/> パックオーダー許可 <input checked="" type="checkbox"/> 一般会計インターフェイス <input checked="" type="checkbox"/> 総勘定元帳への数量書込み <input type="checkbox"/> 保管場所制御 <input type="checkbox"/> 倉庫管理制御 <input checked="" type="checkbox"/> 品質制御 <input type="checkbox"/> 製品原価明細の使用 <input type="checkbox"/> 他社デポ <input checked="" type="checkbox"/> 在庫ロットの作成 <input type="checkbox"/> 保管場所セグメント制御	
第2品目番号の識別記号			
第3品目番号の識別記号	*		
顧客仕入先の識別記号	#		
セグメント品目の識別記号	@		
セグメント区切り文字			
引当方法	1		
指定引当て(日数)	999		
年間日数	260		
顧客相互参照コード	C		
仕入先相互参照コード	VN	在庫維持費 (%)	0.100
購買原価方式	07	仕訳摘要の指定	1
原価計算方法 (売上在庫)	07	承認経路コード	
現行期間	6		

[事業所固定情報] フォーム

品質管理試験の対象とする各事業所の指定を行うには、次の手順に従います。

1. [事業所コード] フィールドに英数字から成るコードを入力して、[検索] をクリックします。

このコードは、費用のトラッキング対象とする事業内の個々のビジネスユニットを示します。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所などをビジネスユニットに設定できます。

ビジネスユニットを伝票、組織、個人に割り当てて、管轄別のレポートを作成することができます。たとえば、未決済の買掛金/売掛金に関するレポートをビジネスユニット別に作成し、管轄部門ごとに設備をトラッキングすることができます。

ビジネスユニットにセキュリティが設定されていると、権限のないユーザーにはビジネスユニットに関する情報は表示されません。

2. 使用可能な事業所の一覧から品質管理試験の対象とする事業所を選択して、[選択] をクリックします。
3. [品質制御] チェック ボックスをオンにします。

EnterpriseOne では、このチェック ボックスをオンにするということは、選択した事業所に対して EnterpriseOne 品質管理システム (システム 37) を有効にすることを意味します。

試験の定義

このセクションでは、試験の概要と以下の方法について説明します。

- 試験の改訂 (P3701) の処理オプションの設定

- 試験の定義

試験について

品質管理を有効にした後、特定の事業所または全事業所に対して実行する試験を定義します。たとえば、ソフトドリンクに関する糖分濃度の試験を定義することなどができます。

各試験に対して、次の情報を指定します。

- 試験の説明
- 試験の有効期間
- 結果の記録方法
- 試験のサンプル数
- 結果の評価方法
- 分析証明書に印刷する情報
- 試験方法および ASTM (米国材料試験協会) の参照資料番号

試験の設定では、その試験が必須、任意、保証済みのいずれのタイプに該当するかを定義できます。こうした試験タイプによって、試験結果の入力が必須であるかどうかを示します。

次の表で、各試験タイプについて説明します。

試験タイプ	説明
必須	試験を“必須”として定義した場合、試験結果の入力は必須となります。試験結果が不合格水準の値を示すと、該当のロットは不合格となり、試験結果の入力プログラム (P3711) の処理オプションで指定した状況が設定されます。“必須”の試験で結果を入力しなかった場合、入力対象の空白レコードは不合格水準の値と見なされ、[合格数量] フィールドまたは [合格%] フィールドの情報に応じて、ロットは処理の対象から外されます。
任意	試験を“任意”として定義した場合、試験結果の入力は必須とはなりません。“任意”の試験では、結果を入力しなかった場合にロットが不合格となることはありません。一方、不合格水準の値を入力した場合は、その試験の [合格数量] フィールドまたは [合格%] フィールドの情報に応じて、ロットは不合格となります。
保証済み	試験を“保証済み”として定義した場合、試験結果の入力は必須となります。“保証済み”の試験とは、組織の品質保証体制の一環として保証する試験を指します。試験定義の [試験の表示/評価] オプションによって、試験結果の入力時に結果を表示しないように設定することができます。ただし、“保証済み”の試験の場合、分析証明書への結果の印刷は常に実行されます。

汎用テキストによって、特定の試験に関する情報や指示 (使用するサンプリング方法など) を追加することができます。試験の汎用テキストは、優先情報に自動的にコピーされます。試験結果の入力時、情報、指示を試験や優先情報から試験結果にコピーする処理オプションを選択できます。

優先情報によって、次に示す項目を任意に組み合わせた試験、仕様のカスタマイズが可能になります。

- 顧客
- 顧客グループ
- 品目（製品）
- 品目グループ

英数字による試験結果の値を設定した場合、英数字による試験結果と各結果に対応する数値を含むユーザー定義のコードリストを設定することができます。このリストによって、英数字による試験結果が最小値と最大値で規定される範囲内にあるかどうか自動的に判別されます。

英数字による試験結果の値の設定は、ユーザー定義のコードを使用せずに行うこともできます。この場合、任意の書式で試験結果を入力できます。例として、設備測定の実験を設定し、試験時に記録を行うケースが考えられます。このような場合、試験結果の値について考慮することはありません。

試験を設定した後に、検討および改訂を行うことができます。また、試験定義レポート (R37410) を印刷することもできます。

試験の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[試験定義の改訂]	W3701A	[品質管理セットアップ] (G3741)、[試験の改訂] [試験定義の処理] フォームで、[追加] ボタンをクリックします。	試験を定義します。

試験の改訂 (P3701) の処理オプションの設定

以下の処理オプションでは、試験の改訂プログラムのデフォルト処理を指定します。

デフォルト

この処理オプションでは、試験定義を表示する際にシステムによって参照される、試験定義の状況を指定します。

状況

画面に表示する試験定義を指定します。値は以下のとおりです。

空白: アクティブな試験定義のみを表示します。

1: 承認待ちの試験定義のみを表示します。

2: 試験定義の履歴情報のみを表示します。

3: 却下された変更要求のみを表示します。

処理

この処理オプションでは、試験定義の履歴情報を自動保存するかどうかを指定します。

ログ保存

既存の試験定義を変更適用前に自動的に記録するかどうかを指定します。試験定義の記録時に、履歴情報としてトランザクションが自動的に保存されます。保存された情報は、試験の改訂 (P3701) の処理オプションにある [デフォルト] タブで [履歴] オプションを選択することにより、オンラインやレポートで確認することができます。値は以下のとおりです。

空白: 記録は実行されません。

1: 記録が実行されます。

ワークフロー

この処理オプションでは、試験定義変更の際、ワークフロー承認プロセスを有効にするかどうかを指定します。

ワークフロー

試験定義変更の際、ワークフロー承認プロセスを有効にするかどうかを指定します。ワークフローを有効にした場合、改訂された試験定義が実際に使用可能となるためには承認が必要となります。値は以下のとおりです。

ブランク: 有効にしません。改訂された試験定義は直ちに使用可能となります。

1: 有効にします。改訂された試験定義が実際に使用可能となるためには承認が必要となります。

試験の定義

[試験定義の改訂] フォームにアクセスします。

[試験定義の改訂] フォーム

[試験ID]

任意の品目を実施する試験に対する一意の ID を入力します。次のような例があります。

COL: 色に関する試験

DENS: 密度に関する試験

CL-2: 明度に関する試験

[有効開始]

試験の有効期間の開始日付を入力します。

デフォルトは現在のシステム日付です。今後予定している変更に応じて将来の有効日付を入力することもできます。将来的に無効になる品目も記録することができます。これらの品目は、製造原価計算、製造現場管理、所要量計画で認識されます。資材所要量計画システムでは、部品表の改訂レベルではなく、有効日付に基づいて、有効な構成品が特定されます。一部のフォームでは、ユーザーが入力した有効日付に基づいて、データが表示されます。

[終了]

試験の有効期間の終了日付を入力します。

デフォルトは、データ辞書で変換世紀年として定義されているデフォルト年の 12 月 31 日です。今後予定している変更に応じて将来の有効日付を入力することもできます。将来的に無効になる品目も記録することができます。これらの品目は、製造原価計算、製造現場管理、所要量計画で認識されます。資材所要量計画システムでは、部品表の改訂レベルではなく、有効日付に基づいて、有効な構成品が特定されます。一部のフォームでは、ユーザーが入力した有効日付に基づいて、データが表示されます。

[定義] の [試験タイプ]

[定義] タブを選択します。

[必須]

試験で合格となるためには結果の値が許容範囲内である必要がある場合に選択します。必須として定義された各試験で結果を入力しないと、品目は品質検査で合格となりません。

[任意]

結果の入力時に、値の入力を任意とする場合に選択します。このタイプが選択された各試験では、結果の入力は必須ではありません。ただし、不合格となるような結果を入力した場合、その品目は品質検査で不合格となります。

[保証済み]

結果の入力時に、値の入力を任意とする場合に選択します。このタイプが選択された試験では、[試験の改訂] の試験の表示に関するフィールドを使用することによって、試験結果の入力時に表示を行うかどうかを制御することができます。また、この試験は、分析証明書に印刷されます。

[定義] の [表示/印刷]

分析証明書に表示する情報を指定します。

[試験の表示/評価]

受注オーダーからアクセスが行われた場合に試験結果照会フォームに試験結果を表示する方法を指定するコードを入力します。このコードにより、テストの評価方法も指定されます。値は以下のとおりです。

0: 試験結果の改訂や結果照会のプログラムを使用した場合、試験結果は表示されません。この値は、[試験タイプ] で [保証済み] が選択されている場合にのみ使用できます。

1: 結果照会プログラムを使用した場合、全ての試験データが表示されます。試験結果の改訂では、結果の値の入力に対応するため、全ての試験データが表示されます。ロットの合格/不合格の判定には、結果の全ての値が使用されます。

2: 結果照会プログラムを使用した場合、試験結果の平均レコードのみが表示されます。試験結果の改訂では、全ての試験データが表示されます。ロットの合格/不合格の判定には、試験結果の平均のみが使用されます。

3: 結果照会プログラムを使用した場合、最新の試験データが表示されます。最新の試験データとは、試験結果の改訂で最後に入力された試験結果です。ロットの合格/不合格の判定には、最後の試験結果のみが使用されます。

[試験の印刷]

分析証明書に試験を印刷するかどうかの判定に使用されるコードを入力します。値は以下のとおりです。

0: 試験は分析証明書に印刷されません。

1: 全ての試験データが分析証明書に印刷されます。

2: 試験結果レコードの平均のみが分析証明書に印刷されます。

3: 最新の試験データが分析証明書に印刷されます。最新の試験データとは、試験結果の改訂で最後に入力された試験結果レコードです。

[テキスト印刷]

試験結果の改訂 (P3711) で入力される品目に関する汎用テキストを分析証明書に印刷するかどうかを指定します。値は以下のとおりです。

オン: 印刷する。

オフ: 印刷しない。

[定義] の [サンプル情報]

サンプルに関する情報を定義します。

[サンプル数]

試験のために採取するサンプルの数を入力します。

[サンプル%]

オーダー数量に対するパーセンテージを入力します。この値により、試験結果の改訂で作成されるサンプルの数が決まります。たとえば、[サンプル%] の値が 50、オーダー数量が 10 の場合、試験結果の改訂では 5 つのサンプルが作成されます。作成するサンプルの数を制御するには、このフィールドまたは [サンプル数] フィールドのいずれかを使用します。このフィールドは、試験結果の改訂のオーダー モードでのみ使用できます。

[サンプル%] の値が 100 の場合、オーダーの全てのユニットで試験が必要になります。ロットの合格には、オーダーの全てのユニットの合格が必要になるため、[合格数量]、[合格%] は使用できません。

[サンプル・サイズ]

試験のために採取する 1 サンプルの数量を入力します。これは、システムでは使用されない、参照専用のフィールドです。

[合格数量]

試験サンプルが品質検査で合格となるために合格する必要がある試験の数量を示します。このフィールドの値は、[サンプル%] の値が 100 以外である場合に評価されます。[合格数量] の値を使用する場合、試験の定義ごとに所定のフィールドで入力を行う必要があります。値は以下のとおりです。

ブランク: [合格%] の値を適用する。

値を指定: 表示/評価を実行する。

[合格%]

サンプルが品質検査で合格となるために合格する必要がある試験のパーセンテージを示します。このフィールドの値は、[サンプル%] の値が 100 以

外の場合に使用されます。[合格%] の値を使用する場合、試験の定義ごとに所定のフィールドで入力を行う必要があります。値は以下のとおりです。

ブランク: [合格数量] の値を適用する。

値を指定: 表示/評価を実行する。

[サンプル・サイズ計量単位] 試験のために採取するサンプルの計量単位を識別するコードを入力します。計量単位としては、バレル、ガロン、時間、立方ヤードなどがあります。

[結果範囲] の [英数字]

結果範囲の選択を行います。

結果の表示方法を指定します。試験の要件を規定するユーザー定義コードを入力することができます。あるいは、ユーザー定義コードのフィールドには何も入力せず、任意の書式で結果を入力することもできます。任意の書式を許可した場合、どのような値が入力された場合も、結果は合格となります。

[表示小数点以下桁数] システムで表示される通貨、金額、数量のフィールドの小数点桁数を規定する値を入力します。

最小値および最大値での小数点桁数、試験結果入力での小数点桁数を決定します。

[数字/英字] 試験結果が数字/英数字のいずれであるかを決定します。値は以下のとおりです。

オン: 結果の値は数字であり、右揃えで表示されます。

オフ: 結果の値は英数字であり、左揃えで表示されます。結果に英数字の値を使用する試験では、英数字と数字間の対応が示されたユーザー定義コード テーブルの設定を適用することができます。これらのテーブルは、結果が最小値と最大値で規定される範囲内にあるかどうかを判別し、結果の評価を行うために使用されます。

[システム・コード] システムを識別するユーザー定義コード (98/SY) を入力します。値は以下のとおりです。

01: 住所録

03B: 売掛管理 (拡張売掛管理)

04: 買掛管理

09: 一般会計

11: 多通貨処理

システム コードとユーザー定義コードは組み合わせて使用されます。これにより、試験結果が定義されたり、英数字による試験結果が数字コードと対応付けられ、試験が評価されます。

[ユーザー定義コード] ユーザー定義コードが格納されているテーブルを識別するコードを入力します。このテーブルは、UDC タイプと呼ばれることもあります。

システム コードとユーザー定義コードは組み合わせて使用されます。これにより、試験結果が定義されたり、英数字による試験結果が数字コードと対応付けられて、試験が評価されます。

[結果範囲] の [結果範囲]

[結果範囲] タブを選択します。

[許容最大値]	合格となる試験結果の最大値を入力します。
[優先最小値]	<p>推奨される試験結果（優先値）の最小値を入力します。[許容最小値] の値と等しいか、またはそれよりも大きい値を指定する必要があります。優先最小値は、顧客の要求よりも詳細で厳格な品質評価を行う際に使用します。</p> <p>分析証明書プログラムの処理オプションを使用すると、分析証明書レポートに優先値を印刷することができます。試験の改訂プログラムの処理オプションを使用すると、各優先値と照合を行いサンプルを評価することができます。</p>
[目標値]	結果範囲内で、推奨される、または目標とする試験結果の値を入力します。システムでは目標値に対する検証は実行されないため、これは参照専用のフィールドとなります。
[優先最大値]	<p>推奨される試験結果（優先値）の最大値を入力します。[許容最大値] の値と等しいか、またはそれよりも小さい値を指定する必要があります。優先最大値は、顧客の要求よりも詳細で厳格な品質評価を行う際に使用します。</p> <p>分析証明書プログラムの処理オプションを使用すると、分析証明書レポートに優先値を印刷することができます。試験の改訂プログラムの処理オプションを使用すると、各優先値と照合を行いサンプルを評価することができます。</p>
[許容最小値]	合格となる試験結果の最小値を入力します。
[試験結果計量単位]	試験結果の計量単位を識別するユーザー定義コード (37/UM) を入力します。計量単位としては、バレル、箱、立方ヤード、ガロン、時間などがあります。
[記述] の [カテゴリ・コード]	
	[記述] タブを選択します。
[記述] の [記述]	
	ASTM (米国材料試験協会) 推奨の試験手順を指定します。
[ASTM参照資料]	ASTM (米国材料試験協会) 推奨の試験手順を指定します。
[試験方法]	<p>品質試験の実行方法についての説明を入力します。試験方法に関する情報は、自社の品質管理部門、顧客の双方にとって有益です。次に例を示します。</p> <p>試験: 粘性</p> <p>方法: RVF #4 @10RPM</p> <p>テキスト: RVF 粘度計での粘性試験をスピンドル 4 を使用して 10 回転/分の回転速度で実行</p>
[属性]	試験対象の品目の属性を入力します。

ユーザー定義コードの入力

試験結果の値として英数字を指定した場合は、英数字の試験結果と各結果に対応する数値を含むユーザー定義コードテーブル (37/C1) を設定することができます。このリストによって、英数字の試験結果が最小値と最大値で規定される範囲内にあるかどうか自動的に評価されます。

各ユーザー定義コードでは、記述に関する 2 番目のカラムに、英数字によるコードの値を表す数値が格納されています。[記述2] フィールドでは、小数ではなく整数を使用します。

たとえば、色に関する英数字による試験結果について、以下のような値を入力するケースなどが考えられます。

- [記述1]: Clear1 (透明 1)、[記述2]: 1
- [記述1]: Yellow2 (黄 2)、[記述2]: 2
- [記述1]: Amber3 (オレンジ 3)、[記述2]: 3

重要: 小数を使う必要がある場合、記述に関する 2 番目の列の数は、カンマや小数点などの区切り文字などを使用して、小数点を処理する環境に対応した書式にします。試験の改訂プログラム (P3701) で定義した小数点桁数は、ユーザー定義コード リストの小数点桁数と一致している必要があります。設定後に小数点の変更を行った場合、想定外の結果が生成されることがあります。

仕様の定義

このセクションでは、仕様の概要と以下の方法について説明します。

- 仕様の改訂 (P3702) の処理オプションの設定
- 仕様の定義

仕様について

仕様とは、常に同時に実行される試験をグループ化したものです。仕様の定義時には、どの試験を同時に実行するかを決定します。仕様内で試験に順序を設定した場合、試験結果では設定された順に試験が表示されます。仕様は、特定の事業所固有にすることも、全ての事業所共通にすることも可能です。

仕様の例としては、ソフトドリンクの調合に関する仕様などがあります。この場合、カフェイン、色合い、糖分濃度の試験などが組み込まれます。品質試験の合格/不合格は、仕様自体に対してではなく、こうした仕様内の個々の試験に対して判定されます。

注: 仕様内で試験をカスタマイズすることはできません。試験や仕様のカスタマイズが必要な場合には、優先情報を使用します。

仕様ごとに、以下の項目を定義できます。

- 名前
- 記述
- 仕様に組み込む試験

仕様を定義した後に、検討や改訂を行うことができます。また、試験仕様のレポートを印刷することもできます。

注: ワークフロー承認プロセスを使用している場合、状況が“保留”のレコードの変更はできません。また、全ての変更は、承認が行われるまでは有効になりません。

事前設定

仕様を定義する前に、以下の作業を行う必要があります。

- ワークフローを有効にして承認プロセスが使用できるように、仕様の改訂プログラム (P3702) で処理オプションを設定します。
- 仕様定義への変更が記録されて履歴情報が作成されるように、仕様の改訂プログラムで処理オプションを設定します。

仕様の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[仕様の改訂]	W3702C	[品質管理セットアップ] (G3741)、[仕様の改訂] [仕様の処理] フォームで、 [追加] ボタンをクリック します。	仕様を定義します。

仕様の改訂 (P3702) の処理オプションの設定

以下の処理オプションでは、仕様の改訂プログラムのデフォルト処理を指定します。

デフォルト

この処理オプションでは、仕様を表示する際にシステムによって参照される、仕様の状況を指定します。

1. 状況
 - 表示する仕様を絞り込むための状況を指定します。値は以下のとおりです。
 - 1: 承認待ちの仕様のみを表示します。
 - 2: 仕様の履歴情報のみを表示します。
 - 3: 却下された変更要求のみを表示します。
 - 空白: アクティブな仕様のみを表示します。

処理

この処理オプションは、仕様の履歴情報を自動保存するかどうかを指定します。

1. ログ保存
 - 既存の試験定義に対する追加、修正、削除を自動的に記録するかどうかを指定します。ワークフローを有効にした場合、改訂された試験定義が実際に使用可能となるためには、行った追加、修正、削除は全て承認されている必要があります。こうした変更前トランザクションは、履歴情報として自動的に記録されます。記録された情報は、状況として“履歴”(状況の値: 2)を選択することにより、オンラインやレポートで確認することができます。値は以下のとおりです。

空白: 実行しません。

- 1: 実行します。

ワークフロー

この処理オプションでは、仕様変更の際、ワークフロー承認プロセスを有効にするかどうかを指定します。

ワークフロー

ワークフロー承認プロセスを有効にするかどうかを指定します。ワークフローを有効にした場合、改訂された試験定義が実際に使用可能となるためには、行った追加、修正、削除は全て承認されている必要があります。値は以下のとおりです。

ブランク: 有効にしません。改訂は直ちに使用可能となります。

1: 有効にします。改訂された試験定義が実際に使用可能となるためには承認が必要です。

仕様の定義

[仕様の改訂] フォームにアクセスします。

順序	試験 ID	事業所	記述	許容最小値	優先最小値	目標値
1	SD-01	M30	Compare color - Test Stri	1	1	
2	SD-02	M30	Check fill level	F02	F02	F02
3	SD-03	M30	Verify safety seal	YES	YES	YES
4	SD-04	M30	Verify bottles clear of debi	YES	YES	YES
5						

[仕様の改訂] フォーム

[事業所]

(省略可) 事業所を特定するコードを入力します。このフィールドをブランクにした場合、仕様は全ての事業所に対して有効になります。

[コード 1]、[コード 2]、[コード 3]、[コード 4]、[コード 5]

仕様をグループに分類する場合に、これらの任意のフィールドで入力を行います。これらのフィールドは、仕様レポート (R37415) と共に使用することで、特定の事業所に関して適用される仕様を管理する場合などに役立てることができます。仕様レポートでデータ選択を設定して、特定の分類コードが割り当てられた仕様のみを印刷することができます。

[順序]

優先プロファイル (品目試験仕様) 内で、試験/仕様のソート順序を指定する数字を入力します。

[試験 ID]

このフィールドは、[順序フィールド] 同様、仕様内での試験のグループ化で使用します。

優先プロファイルの設定

このセクションでは、優先プロファイルの概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 品質管理優先情報の改訂 (P40318) の処理オプションの設定
- 品質管理優先マスター レコードの設定
- 優先プロファイルの定義
- 表示基準のカスタマイズ
- 仕様の分割

優先プロファイルについて

EnterpriseOne 品質管理システムでは、優先プロファイルによって試験や仕様をカスタマイズすることができます。仕様とは、同時に実行される試験、たとえば、類似した機能を提供する試験などをグループ化したものです。

優先プロファイルを使用して、顧客、顧客グループ、品目、品目グループを任意に組み合わせて試験や仕様をカスタマイズすることができます。優先プロファイルは、システムが品目に対して実行する試験を判断する際に使用されます。該当する品目でユーザー定義された優先プロファイルのタイプが条件として適用されます。品質試験は優先情報が関連付けられた品目に対してのみ実行されるため、優先プロファイルによって、品質管理の各種フォームへのアクセス制限もある程度行うことができます。

通常、優先プロファイルは、次のような一貫したビジネス要件が存在する場合に作成します。

- 顧客の仕様書
- 会社の方針
- 監督機関の規定

優先情報の例としては、仕入先から品目を受領した時点での、顧客による試験に関する要求があります。顧客は、該当の品目に対して、さまざまな試験を要請したり、試験のカスタマイズを要求することができます。

仕様の例としては、ソフトドリンクの調合に関する仕様などがあります。この場合、カフェイン、色合い、糖分濃度の試験などが組み込まれます。品質試験の合格/不合格は、仕様自体に対してではなく、こうした仕様内の個々の試験に対して判定されます。

試験/仕様の定義後に、優先プロファイル (優先情報) を設定して、カスタマイズを行うことができます。

優先プロファイルでの階層の設定に基づき、次の項目に対して優先情報を設定することができます。

- 顧客
- 顧客グループ
- 品目 (製品)
- 品目グループ
- 顧客と品目、または顧客と品目のグループの任意の組み合わせ

各優先情報を特定の事業所に限定して適用することもできます。

システムで設定した階層に基づき、試験結果を入力した際に表示される優先情報が決定されます。

優先情報は、定義した後に試験結果や部品表の改訂時に検索できるようになります。この情報は、品目に関する事業所情報の確認時や作業オーダーの入力時にも検索できます。

優先マスター レコードの設定

EnterpriseOne 品質管理システムの優先情報を定義する前に、品質管理で使用する優先マスター レコードを設定する必要があります。優先タイプに対して階層を定義すると、その階層の設定はシステム全体に適用されます。たとえば、個々の事業所に関して設定を変更することなどはできません。品質管理の優先タイプは、18 としてハードコード化されています。

品質管理に対して定義した優先階層では、加法的な設定が適用されます。試験結果を入力すると、優先階層で定義された顧客番号/顧客グループ/品目番号/品目グループの組み合わせに一致する試験が全て検索されます。同一の試験に属する複数のインスタンスが同一のサンプル内で使用されることを回避するため、各タイプで最初に一致した組み合わせに関してリストされた試験のみが使用されます。

仕様の分割

優先情報の定義後、仕様を分割して、その仕様に対応する試験のグループを検討することができます。仕様の分割は、試験定義の値を上書きする必要がある場合に実行することもあります。ここでは試験/仕様の値を T に設定します。試験/仕様の値が S に設定されている場合は、試験定義の値を上書きすることはできません。

重要: 仕様を分割した場合、元の状態に復元することはできません。仕様を分割すると、その仕様を構成する試験を検討することができます。[品質管理優先情報の改訂] フォームで [OK] をクリックするまでは、仕様は実際に分割されていません。優先情報内で仕様の復元が必要な場合は、その優先情報内で個々の試験を削除して、新しい行に仕様を入力します。優先プロファイルで試験レコードや仕様レコードを削除しても、試験マスター レコードや仕様マスター レコードへの影響はありません。

事前設定

優先プロファイルを設定する前に、以下の作業を行う必要があります。

- 顧客を基準として試験の定義および試験結果の入力を行う場合は、住所録で顧客情報を設定します。
- 品目を基準として試験の定義および試験結果の入力を行う場合は、F4101 テーブルと F4102 テーブルで品目番号を設定します。
- 顧客グループまたは品目グループを基準として試験の定義および試験結果の入力を行う場合は、グループを設定します。
- 優先プロファイルで使用する階層を設定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 8.11 SP1 PeopleBook、「スケジュールと調整の使い方」、「優先マスターの設定」

- ワークフローを有効にして承認プロセスが使用できるように、品質管理優先情報の改訂プログラム (P40318) の処理オプションを設定します。
- 優先プロファイルへの変更が記録されて履歴情報が作成されるように、品質管理優先情報の改訂プログラムで処理オプションを設定します。

優先プロファイルの設定に使用するページ

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[優先マスターの処理]	W40070C	[品質管理セットアップ] (G3741)、[優先マスター]	品質管理の優先マスターレコードを設定します。
[優先階層の改訂]	W40073D	[優先マスターの処理] フォームで優先情報を選択して、[ロー]メニューから[階層]を選択します。	優先階層を定義します。
[優先階層の選択]	W40073F	[品質管理セットアップ] (G3741)、[品質管理優先情報の改訂] [品質管理プロファイルの処理] フォームで、[追加] ボタンをクリックします。	優先階層を選択します。
[品質管理優先情報の改訂]	W40318B	[優先階層の選択] フォームで階層を選択して、[選択] ボタンをクリックします。	優先プロファイルを定義します。
[表示基準]	W40318D	[品質管理優先情報の改訂] フォームで行を選択して、[ロー]メニューから[表示基準]を選択します。	表示基準をカスタマイズします。 ここで行った選択に基づき、[試験結果の改訂] フォームの表示内容が制御されます。 特定のプログラムで品質試験を実行しない場合は、該当するオプションのチェックボックスがオフになっていることを確認します。 たとえば、作業オーダーの在庫完了時に試験結果を入力するには、[製造完了] チェックボックスがオンになっていることを確認します。この設定により、作業オーダー完了の入力時に、試験結果の改訂プログラム (P3711) が有効になります。
[品質管理優先情報の改訂]	W40318B	[品質管理セットアップ] (G3741)、[品質管理優先情報の改訂] [品質管理プロファイルの処理] フォームで仕様を選択して、[選択] ボタンをクリックします。	優先情報を構成する試験/仕様を定義します。

品質管理優先情報の改訂 (P40318) の処理オプションの設定

処理オプションの設定により、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

この処理オプションでは、優先情報を表示する際にシステムによって参照される、優先情報の状況を指定します。

状況 表示する品質管理優先情報を絞り込むための状況の値を指定します。値は以下のとおりです。

空白: アクティブな優先情報のみを表示します。

- 1: 承認待ちの優先情報のみを表示します。
- 2: 優先情報の履歴情報のみを表示します。
- 3: 却下された変更要求のみを表示します。

フォームでは、このフィルタを変更して全ての状況に対する値を表示することができます。

処理

この処理オプションでは、優先情報の履歴情報を自動保存するかどうかを指定します。

ログ保存 品質管理優先情報に対する追加、修正、削除の記録を有効にするかどうかを指定します。記録を有効にすると、新しい変更が適用される前に、その時点でアクティブな品質管理優先情報のトランザクションが自動的に保存されます。こうした変更前トランザクションは、履歴情報として記録されます。記録された情報は、状況として“履歴”(状況の値: 2)を選択することにより、オンラインやレポートで確認することができます。値は以下のとおりです。

空白: 有効にしません。

- 1: 有効にします。

ワークフロー

この処理オプションでは、優先情報変更の際、ワークフロー承認プロセスを有効にするかどうかを指定します。

ワークフロー ワークフロー承認プロセスを有効にするかどうかを指定します。ワークフローを有効にした場合、改訂された品質管理優先情報が有効化され実際に使用可能となるためには、行った追加、修正、削除は全て承認されている必要があります。値は以下のとおりです。

空白: 有効にしません。改訂は直ちに使用可能となります。

- 1: 有効にします。改訂が実際に使用可能となるためには承認が必要です。

品質管理優先マスター レコードの設定

[優先マスターの処理] フォームにアクセスします。

品質管理優先マスター レコードを設定するには、次の手順に従います。

1. [優先タイプ] フィールドに「18」を入力して、[検索] をクリックします。
2. 優先情報を選択して、[ロー] メニューから [階層] を選択します。
3. [優先階層の改訂] フォームで、ローとカラムの交差部分に連続した番号を入力し、優先情報の階層を定義します。

4. [OK] をクリックします。

優先プロファイルの定義

[品質管理優先情報の改訂] フォームにアクセスします。

品質管理優先情報の改訂 - 品質管理優先情報の改訂

OK(O) 削除(D) キャンセル(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

顧客No. 4244 Creekside Warehouse 事業所 M30

顧客グループ

品目No. 4100 Sport Drink, Lime

品目グループ

レコード 1-3 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ソート 順序	試験/ 仕様	試験仕様	事業所	有効 開始	有効 終了	試験 タイプ	許容 最小値
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1	T	SC-01	M30	1999/01/19	2010/12/31	R	.80
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2	T	SD-05	M30	1999/01/19	2010/12/31	R	YES
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	3							

[品質管理優先情報の改訂] フォーム

ヘッダー領域に表示されるフィールドは、選択した階層に応じて変わります。

[顧客No.] 従業員、応募者、関連会社、顧客、仕入先、テナント、所在地などの、住所録システムの項目を識別する番号を入力します。

[品目No.] 品目に割り当てられている番号を入力します。書式には、略式、明細、第3品目番号があります。

[ソート順序] 優先プロファイル (品目試験仕様) 内で、試験/仕様のソート順序の判定に使用される数字を入力します。

[試験/仕様] 優先プロファイル (品目試験仕様) 内のレコードが試験、仕様のいずれであるかを示すコードを入力します。値は以下のとおりです。

T (試験): 元の試験定義の試験情報やサンプル情報を、該当のフィールドに値を入力することによって上書きできます。上書きを行うと、優先情報にはその値が表示されます。それ以外の場合は、優先情報にはデフォルト値が表示されます。

S: (仕様)

[試験仕様] 任意の品目に実施する試験に対する一意の ID を入力します。次のような例があります。

COL: 色に関する試験

DENS: 密度に関する試験

CL-2: 明度に関する試験

[試験タイプ] 試験結果を入力した際の試験の処理方法を指定する値を入力します。値は以下のとおりです。

R (必須): 試験で合格となるためには、結果の値が許容範囲内である必要があります。必須として定義された各試験に対する結果を入力しないと、品目は品質検査で合格となりません。

O (任意): 結果の入力時、値の入力は任意です。このタイプが選択された各試験では、結果の入力は必須ではありません。ただし、不合格となるような結果を入力した場合、その品目は品質検査で不合格となります。

G (保証済み): 結果の入力時、値の入力は任意です。このタイプが選択された試験では、[試験の改訂] の試験の表示に関するフィールドを使用することによって、試験結果の入力時に表示を行うかどうかを制御することができます。また、この試験は、分析証明書に印刷されます。

[優先最小値]

推奨される試験結果 (優先値) の最小値を入力します。[許容最小値] の値と等しいか、またはそれよりも大きい値を指定する必要があります。優先最小値は、顧客の要求よりも詳細で厳格な品質評価を行う際に使用します。

分析証明書プログラムの処理オプションを使用すると、分析証明書レポートに優先値を印刷することができます。試験の改訂プログラムの処理オプションを使用すると、各優先値と照合を行いサンプルを評価することができます。

[優先最大値]

推奨される試験結果 (優先値) の最大値を入力します。[許容最大値] の値と等しいか、またはそれよりも小さい値を指定する必要があります。優先最大値は、顧客の要求よりも詳細で厳格な品質評価を行う際に使用します。

分析証明書プログラムの処理オプションを使用すると、分析証明書レポートに優先値を印刷することができます。試験の改訂プログラムの処理オプションを使用すると、各優先値と照合を行いサンプルを評価することができます。

[結果計量単位]

試験結果の計量単位を識別するユーザー定義コード (37/UM) を入力します。計量単位としては、バレル、箱、立方ヤード、ガロン、時間などがあります。

[小数点以下桁数]

システムで表示される通貨、金額、数量のフィールドの小数点桁数を規定する値を入力します。

[試験方法]

品質試験の実行方法についての説明を入力します。試験方法に関する情報は、自社の品質管理部門、顧客の双方にとって有益です。次に例を示します。

試験: 粘性

方法: RVF #4 @10RPM

テキスト: RVF 粘度計での粘性試験をスピンドル 4 を使用して 10 回転/分の回転速度で実行

[サンプル%]

オーダー数量に対するパーセンテージを入力します。この値により、試験結果の改訂で作成されるサンプルの数が決まります。たとえば、[サンプル%] の値が 50、オーダー数量が 10 の場合、試験結果の改訂では 5 つのサンプルが作成されます。作成するサンプルの数を制御するには、このフィールドまたは [サンプル数] フィールドのいずれかを使用します。このフィールドは、試験結果の改訂のオーダー モードでのみ使用できます。

[サンプル%] の値が 100 の場合、オーダーの全てのユニットで試験が必要になります。ロットの合格には、オーダーの全てのユニットの合格が必要になるため、[合格数量]、[合格%] は使用できません。

- [合格数量]** 試験サンプルが品質検査で合格となるために合格する必要がある試験の数量を指定します。このフィールドの値は、[サンプル%] の値が 100 以外の場合に使用されます。この合格数量を使用する場合、試験の定義の所定のフィールドで入力を行う必要があります。値は以下のとおりです。
- ブランク: [合格%] の値を適用する。
値を指定: 表示/評価を実行する。
- [合格%]** サンプルが品質検査で合格となるために合格する必要がある試験のパーセンテージを指定します。このフィールドの値は、[サンプル%] の値が 100 以外の場合に使用されます。[合格%] の値を使用する場合、試験の定義の所定のフィールドで入力を行う必要があります。値は以下のとおりです。
- ブランク: [合格数量] の値を適用する。
値を指定: 表示/評価を実行する。
- [試験印刷]** 分析証明書に試験を印刷するかどうかの判定に使用されるコードを入力します。値は以下のとおりです。
- 0: 試験は分析証明書に印刷されません。
 - 1: 全ての試験データが分析証明書に印刷されます。
 - 2: 試験結果レコードの平均のみが分析証明書に印刷されます。
 - 3: 最新の試験データが分析証明書に印刷されます。最新の試験データとは、試験結果の改訂で最後に入力された試験結果レコードです。

表示基準のカスタマイズ

[表示基準] フォームにアクセスします。

- [作業]** 次に示すいずれかの製造関連プログラムから試験結果の改訂プログラム (P3711) にアクセスした場合に、[試験結果の改訂] フォームに試験を表示するかどうかを指定する値を入力します。
- 連産品/副産物完了 (P31115)
スーパー バックフラッシュ (P31123)
作業オーダー時間入力 (P311221)
- このチェック ボックスをオンにした場合、[試験結果の改訂] フォームに試験が表示されます。作業順序や工程タイプと共にこの値を使用して、作業や工程タイプでの試験の表示を制御することができます。
- [入荷作業工程]** 作業工程が指定されたオーダーが製造作業オーダーである状態で、入荷工程の移動/処分プログラム (P43250) から試験結果にアクセスした場合に、[試験結果の改訂] フォームに試験を表示するかどうかを指定する値を入力します。値は以下のとおりです。
- オン: 表示する。
オフ: 表示しない。
- 作業順序と共にこの値を使用して、工程作業での試験の表示を制御することができます。

- [製造完了]** 次に示すいずれかの製造関連プログラムから試験結果の改訂プログラム (P3711) にアクセスした場合に、[試験結果の改訂] フォームに試験を表示するかどうかを指定する値を入力します。
- 作業オーダー完了 (P31114)
完了ワークベンチ (P3119)
- グリッド領域に「1」を入力した場合、またはこのチェック ボックスをオンにした場合、[試験結果の改訂] フォームに試験が表示されます。
- [入荷確認]** 入荷確認 (購買オーダー別/品目別) プログラム (P4312) から試験結果にアクセスした場合に、[試験結果の改訂] フォームに試験を表示するかどうかを指定する値を入力します。値は以下のとおりです。
- オン: 表示する。
オフ: 表示しない。
- [入荷確認の作業工程]** 作業工程が指定されたオーダーが購買オーダーである状況で、入荷工程の移動/処分プログラム (P43250) から試験結果にアクセスした場合に、[試験結果の改訂] フォームに試験を表示するかどうかを指定する値を入力します。値は以下のとおりです。
- オン: 表示する。
オフ: 表示しない。
- 作業順序と共にこの値を使用して、作業での試験の表示を制御することができます。
- [出荷確認]** 出荷確認プログラム (P4205) から試験結果にアクセスした場合に、[試験結果の改訂] フォームに試験を表示するかどうかを指定する値を入力します。値は以下のとおりです。
- オン: 表示する。
オフ: 表示しない。
- [バルク積荷の確認]** 次に示すいずれかのプログラムから試験結果にアクセスした場合に、[試験結果の改訂] フォームに試験を表示するかどうかを指定する値を入力します。
- オーダー別バルク積荷確認/トリップ別バルク積荷確認 (P49510)
梱包製品積荷確認 (P49530)
- 値は以下のとおりです。
- オン: 表示する。
オフ: 表示しない。
- [タイプ]** 工程のタイプを示すユーザー定義コード (40/TR) を入力します。用途に応じて、さまざまな作業工程指示のタイプを定義できます。次のような例があります。
- M: 標準製造工程
RWK: 再作業工程
RSH: 簡易工程
- 工程タイプは、作業オーダー見出しに定義します。作業オーダーの作業工程で定義した特定の工程タイプが使用されます。

製造原価計算システムおよび所要量計画システムでは、工程タイプ M のみが使用されます。

注: 優先情報の要素として仕様を指定した場合、仕様全体に対する表示基準を設定することができます。仕様に対して設定した表示基準は、仕様内の全ての試験に対して適用されます。

仕様の分割

[品質管理優先情報の改訂] フォームにアクセスします。

仕様を分割するには、次の手順に従います。

1. レコードを選択して、[ロー] メニューから [仕様の分割] を選択します。
2. この仕様に関して分割された試験を確認します。試験定義の値は必要に応じて上書きできます。

注: ワークフロー承認プロセスを使用している場合は、状況が“保留”のレコードの変更はできません。また、全ての変更は、承認が行われるまでは有効になりません。

承認プロセスの処理

このセクションでは、承認プロセスの概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 試験、仕様、優先情報の改訂
- 改訂の承認

承認プロセスについて

試験、仕様、優先情報への変更に対する承認が必要である場合、ワークフロー承認プロセスを有効にして、承認ワークベンチ プログラム (P37300) を使用することができます。これにより、自動化された承認プロセスを介した変更の適用が可能になります。

次に示すプログラムで対応する処理オプションを設定して、承認プロセスのワークフローを有効にします。

- 試験の改訂 (P3701)
- 仕様の改訂 (P3702)
- 品質管理優先情報の改訂 (P40318)

承認ワークベンチ プログラムは、多数の変更を伴う承認プロセスの効率化に特に役立ちます。特定の承認者に対する承認メッセージが全て表示されるため、承認者はまとめて回答を行うことができます。

ワークフローを有効化した場合、いずれかのフィールドに対して変更が行われると、ワークフロー承認プロセスが開始されます。全ての改訂トランザクションが、状況として“保留”を割り当てられ開始されます。指定された承認者は、変更を検討して、その変更を承認または却下します。たとえば、試験結果の可否に関する許容最小値および許容最大値が変更されたが、顧客の要件に基づきそれを却下しなければならないケースなどが考えられます。

改訂を却下すると、変更を行った担当者に対して却下を通知するメッセージが送信されます。改訂を承認すると、変更内容が適用され、変更を行った担当者に対して承認を通知するメッセージが送信されます。

保留レコード、却下レコード、および履歴レコードを変更することはできません。保留レコードを変更しようとすると、そのレコードは承認待ちであることを示すメッセージが表示されます。

注: 仕様の改訂レベルは、参照専用の情報です。

試験、仕様、優先情報の改訂

試験、仕様、優先情報は、設定後に、以下のような条件に基づいて改訂を行うことができます。

- ワークフローを有効化しなかった場合、行った変更は直ちに適用されます。
- ワークフローを有効化した場合、変更内容はワークフロー承認プロセスが完了するまでは適用されません。
保留レコードの承認処理が行われていない状況で、アクティブなレコードのみを変更できます。
- ログ保存を有効化した場合、全ての変更に対して履歴レコードが保存されます。
履歴情報を記録するためにワークフローを有効化する必要はありません。

改訂の承認/却下

試験、仕様、優先情報の改訂を行うと、配布リストに指定されたメンバーに対して承認メッセージが送信されます。品質管理承認プログラム (P37300) を使用して、改訂の承認/却下を行うことができます。

複数の改訂要求を処理する場合に、それぞれの要求の承認フォームにアクセスすることなく、承認/却下を行うことができます。承認/却下を行うと、該当の改訂要求は承認ワークベンチに表示されなくなります。

注: 品質管理に関する改訂の承認/却下は、ワークフロー管理システムの従業員ワークセンターを使用して行うこともできます。

事前設定

承認プロセスの処理を実行する前に、以下の作業を行う必要があります。

- ワークフロー承認プロセスを設定します。
参照: PeopleSoft EnterpriseOne Tools 8.95 PeopleBook: Workflow Tools
- 次に示すプログラムで処理オプションを確認し、ワークフロー承認プロセスが有効化されていることを確認します。
 - 試験の改訂 (P3701)
 - 仕様の改訂 (P3702)
 - 品質管理優先情報の改訂 (P40318)
- ワークフロー管理で試験、仕様、優先情報の変更を担当する承認者の配布リストを設定します。
- 承認ワークベンチ プログラム (P37300) の [承認担当者] フィールドに対する権限の割り当てをシステム管理者に依頼します。

変更の承認に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[試験定義の改訂]	W3701A	[品質管理セットアップ] (G3741)、[試験の改訂] [試験定義の処理] フォームで試験を選択して、[選択] ボタンをクリックします。	試験、仕様、および優先情報の改訂を行います。
[品質管理承認ワークベンチ]	W37300C	[品質管理セットアップ] (G3741)、[承認ワークベンチ]	改訂を承認します。

試験、仕様、優先情報の改訂

[試験定義の改訂] フォームにアクセスします。

試験の改訂 - 試験定義の改訂 i ?

OK(O) キャンセル(L) フォーム(E) ツール(T)

試験ID:
 事業所:

記述:
 状況:

有効開始:
 終了:

試験タイプ	表示印刷	サンプル情報
<input checked="" type="radio"/> 必須 <input type="radio"/> 任意 <input type="radio"/> 保証済み	試験の表示評価: <input type="text" value="1"/> 試験の印刷: <input type="text" value="1"/> <input checked="" type="checkbox"/> テキスト印刷	サンプル数: <input type="text" value="2"/> サンプル%: <input type="text"/> サンプル・サイズ: <input type="text" value="1"/> 合格数量: <input type="text" value="2"/> 合格%: <input type="text"/> サンプル・サイズ計量単位: <input type="text" value="BT"/>

[試験定義の改訂] フォーム

試験情報を必要に応じて改訂して、[OK] をクリックします。ワークフローの処理オプションが有効になっている場合は、[OK] をクリックすると承認プロセスが開始されます。

注: 試験、仕様、優先情報での改訂のステップは、基本的には同一です。ここでは、試験の改訂でのステップの例が示されています。ワークフロー承認プロセスの使用が前提となっています。

改訂の承認

[品質管理承認ワークベンチ] フォームにアクセスします。

試験の改訂要求を承認するには、以下のように付加的な情報を検討します。

- レコードを選択し、続いて [ロー] メニューから [要求を表示] を選択して、要求された試験の改訂の詳細を確認します。
- レコードを選択し、続いて [ロー] メニューから [オリジナルを表示] を選択して、元の試験定義を確認します。
- 試験の改訂を承認する場合は、その試験を選択して、[ロー] メニューから [承認] を選択します。

試験の改訂が承認されると、その改訂は承認待ちの改訂のリストから削除されます。配布リストに設定されている全ての承認担当者が試験の改訂を承認すると、該当の改訂要求の状況は“保留”から“アクティブ”に変更され、要求の作成者に対してメッセージが送信されます。改訂のログ保存を有効にしている場合は、履歴レコードの作成も行われます。

- 試験の改訂を却下する場合は、その試験を選択して、[ロー] メニューから [却下] を選択します。

この場合、試験の改訂要求を却下した理由を説明するテキストを入力する必要があります。

配布リストに設定されている承認担当者のいずれかが試験の改訂要求を却下すると、該当の改訂要求の状況は“保留”から“却下”に変更され、その要求の作成者に対してメッセージが送信されます。

注: 試験、仕様、優先情報での承認の処理順序は、基本的には同一です。ここでは、試験の改訂要求での承認ステップの例が示されています。

試験/仕様の検討

このセクションでは、試験/仕様の用途先プログラムの概要と試験/仕様の検討方法について説明します。

試験/仕様の用途先プログラムについて

試験/仕様の用途先プログラム (P37202) を使用して、品質試験で使われる試験/仕様が含まれる優先プロファイルを特定することができます。このプログラムは、優先プロファイル、仕様、試験の検討や改訂でも使用できます。

試験/仕様の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[品質管理優先情報の改訂]	W40318B	[品質管理セットアップ] (G3741)、[試験/仕様の用途先] [試験/仕様の用途先] フォームで試験または仕様を選択して、[ロー] メニューから [優先情報] を選択します。	試験または仕様の検討を行います。 [事業所] フィールドに「*」を入力すると、特定の試験/仕様を全ての事業所に関して検討することができます。[試験/仕様] フィールドに「*」を入力すると、全ての試験/仕様を検討することができます。

試験/仕様の検討

[品質管理優先情報の改訂] フォームにアクセスします。

試験/仕様を検討するには、次の手順に従います。

1. 優先情報の検討や変更を行います。
2. その他の変更を行う必要がある場合は、変更対象のレコードを選択し、[ロー] メニューでオプションを選択します。
3. [OK] をクリックします。

試験結果トレースのための組み込み規則の設定

試験結果をトレースするには、組み込み規則の設定が必要です。組み込み規則はユーザー定義コードです。個々のロットで試験結果のトレースを行う際、このコードによって、処理される品目の元帳トランザクションを制限することができます。どのロットが親ロットに含まれているかを確認したり、親ロットや個々のロットに対する全ての試験を確認することができます。トレースは、組立品の構成部品や再分類された品目に対する試験結果を確認する際に活用できます。

ロットのトレースは、対応するトランザクション（入庫、出庫、完了、受注オーダーなど）と関連付けられて実行されます。組み込み規則で伝票タイプを指定しなかった場合、ロットのトレースは停止されます。たとえば、組み込み規則で作業オーダー完了の伝票タイプを指定しなかった場合、トレースは作業オーダー完了トランザクションで停止されます。

品質管理に関する顧客請求指示の設定

このセクションでは、顧客請求指示の概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 請求指示を設定する顧客の選択
- 品質管理に関する顧客請求指示の設定

顧客請求指示について

受注管理システムを利用している場合、顧客請求指示によって、顧客に分析証明書を提出する必要があるかどうかを指定する必要があります。顧客請求指示を設定して、特定の顧客への分析証明書を出荷が確定した時点で自動的に作成することができます。

分析証明書とは、顧客に販売した品目のロットに関する試験内容と試験結果が示された文書のことです。

事前設定

分析証明書に印刷される試験を制御するため、試験の印刷に関する値が正しく設定されていることを確認します。

品質管理に関する顧客請求指示の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[顧客マスターの処理]	W03013A	[顧客の改訂](G4221)、[顧客請求指示]	請求指示を設定する顧客を選択します。
[請求情報]	W03013E	[顧客マスターの処理] フォームで顧客を選択して、[選択] ボタンをクリックします。 [顧客マスターの改訂] フォームで、[フォーム] メニューから [請求情報] を選択します。	品質管理に関する顧客請求指示を設定します。

請求指示を設定する顧客の選択

[顧客マスターの処理] フォームにアクセスします。

[名称] 宛名を示すテキストを入力します。このフィールドは、英字で 40 文字まで入力可能であり、さまざまなフォームやレポートに表示されます。テキストにはダッシュ、カンマ、およびその他の特殊文字を使用できますが、このフィールドを使用して名前を検索する際は、これらの記号や特殊文字は検索対象になりません。

[検索タイプ] 検索対象となる住所録レコードの種類を指定するユーザー定義コード (01/ST) を入力します。値は以下のとおりです。

- E: 従業員
- X: 元従業員
- V: 仕入先
- C: 顧客
- P: 見込客
- M: 郵送先リスト
- TAX: 納税先

品質管理に関する顧客請求指示の設定

[請求情報] フォームにアクセスします。

[分析証明書の印刷] チェック ボックスをオンに設定すると、顧客の分析証明書が請求ページ 1 に印刷されます。

値は次のとおりです。

値	説明
オン	分析証明書が印刷されます。
オフ	顧客グループを対象に分析証明書レポートが実行された場合に、特定の顧客の分析証明書が印刷されないようにします。

注: この機能は、品質管理システムが使用されており、かつ、分析証明書が作成されている場合にのみ有効となります。

第 4 章

試験結果の処理

この章では、試験結果の処理の概要と以下の方法について説明します。

- 結果を入力する試験の選択
- 試験結果の入力
- 試験結果に関するテキストの入力
- 試験状況の変更
- 追加サンプルの作成
- 試験結果の検討
- 外部の試験結果の処理
- ロット番号による試験結果の検討
- 試験結果のトレース
- 不合格ロットの管理
- 優先プロファイルによる試験済みロットの検討

試験結果の処理について

このセクションでは、以下の項目について説明します。

- 試験結果を処理する機能
- 試験結果の処理
- 試験結果の入力フォーマット
- ロット状況
- サンプルの自動採番
- システムのインテグレーション

試験結果を処理する機能

品質管理システムを設定した後、優先プロファイルで定義したビジネス サイクルにおける適切なタイミングで、サンプルを収集し、品質試験を実行します。品目に対して試験結果を入力し、検討を行います。試験結果の例としては、糖分濃度を検査しているソフトドリンクのサンプルでの 0.20 パーセントという濃度の結果などが挙げられます。

試験結果の処理は、品質管理システム内部から実行することができます。

また、以下のタスクを実行する場合は、他のシステムから品質管理システムにアクセスすることもできます。

- 購買オーダーの品目に関する入荷情報の入力
- 入荷確認工程の作業段階における入荷品目の移動のトラッキング
- 製造工程の各作業における完了状況のトラッキング
- 品目の製造工程後の完了処理と在庫への移動
- 出荷の確認

品質管理データにアクセスするプログラムを以下に示します。

品質管理データ	プログラム
製造現場管理	製造作業オーダー処理 (R31410) 作業オーダー完了 (P31114) スーパー バックフラッシュ (P31123) 作業オーダー時間入力 (P311221)
調達管理	入荷確認 (P4312) 入荷工程の移動/処分 (P43250)
受注管理	出荷確認 (P4205)

試験結果の処理

試験結果の収集は、品目の特性に関する品質評価の後に行います。たとえば、ソフトドリンクのカフェインに関する試験には、品目のサンプルの採取やカフェイン濃度の測定などが含まれます。

ビジネス サイクルにおけるさまざまなタイミングで試験結果の収集と入力を行った後、それらの試験結果を処理します。試験結果は、ユーザーが試験に対して事前に設定した最小値/最大値、および合格数量か合格パーセントのいずれかと照合されます。合格または不合格となったサンプルの数に基づき、品質検査でのロットの可否を判定するための評価が実行されます。ロットの状況は、不合格ロットの状況に関する処理オプションでユーザーが指定した値に自動的に設定されます。

試験結果の入力フォーマット

試験結果は、優先情報フォーマット、オーダー番号フォーマット、コンパートメントフォーマットのいずれかで入力することができます。使用するフォーマットは、試験結果の入力プログラム (P3711) の [結果入力フォーマット] 処理オプションの設定によって決まります。見出し領域の情報に基づき、優先プロファイルから試験やサンプルが選択されます。使用する試験結果のフォーマットは、処理するアクティビティによって異なる場合があります。必要とされる情報は、フォーマットによって異なります。

次の表で、各フォーマットについて説明します。

フォーマット	説明
優先情報フォーマット	購買オーダー、作業オーダー、受注オーダーのいずれかの数量に関する試験結果を入力します。在庫内の既存ロットや新規作成されたロットに関する試験結果を入力することもできます。
オーダー番号フォーマット	材料の調達、製造、販売、または輸送に関するアクティビティの一部として試験結果を入力します。このフォーマットを使用する場合、試験結果の入力プログラム (P3711) には、入荷確認 (P4312)、出荷確認 (P4205)、作業オーダー完了 (P31114) などの他のプログラムからアクセスします。
コンパートメント番号フォーマット	輸送管理システムの積荷確認のアクティビティの一部として試験結果を入力します。積荷タイプおよび品質管理優先情報の設定に基づき、積荷確認でコンパートメント割り当て済み積荷に関して入力が求められている試験結果を入力します。パッケージ品目やバルク品目に関する試験結果を設定することもできます。

ロット状況

ロット状況によって、ロットが保留中であるか出荷用に引当可能であるかが示されます。たとえば、受注オーダーに対応するため、顧客の指定を満たしている試験済みロットを検索しなければならない場合があります。ロットが品質検査に合格し、かつ顧客の指定を満たしている場合、その顧客への出荷用に引き当てることができます。

ロット状況は、次に示すような、不合格ロットと合格ロットに関する処理オプションの設定によって決まります。

- 不合格ロット状況と合格ロット状況に関する処理オプションを設定することができます。これにより、試験が完了して品質検査で合格となる前にロットの販売や出荷が行われてしまう、という事態を防ぐことができます。
- 処理オプションでは、ロットが在庫に移動された時点で直ちに状況を保留にするように設定できます。これは、品質検査に合格しているかどうか、試験が未実施であるかどうかにかかわらず設定可能です。

例として、ロット数量でまだ品質試験が行われていないことを示すためにロット状況 Q を使用するケースが考えられます。購買シナリオでは、このロット状況は、ユーザー定義されたビジネス プロセスと共に機能して、試験が未実施のロットが製造に使用されることを防ぎます。購買した材料のロットの試験が行われた後、ロット状況を F (検査に不合格となったことを示します) やブランク (検査に合格し引当可能となったことを示します) に設定します。または、ビジネス プロセスを定義して、別のロット状況によって使用可能な材料を示すように指定します。ただし、引当可能と見なされるのはロット状況がブランクの場合のみであるという点に注意してください。

不合格ロット状況と合格ロット状況に関する処理オプションを設定しなかった場合は、全てのロットが販売や出荷の対象として認められます。ロットが引当可能であると見なされるため、在庫から品目の選択を行う全てのプログラムでロットの選択が可能です。

次のような特性を持つ試験については、試験結果を任意の書式で入力できます。

- 英数字の書式で表示される ([試験定義の改訂] フォームの [数字/英字] チェック ボックスがオフになっている)。
- ユーザー定義コード リストが設定されていない。

ユーザー定義コードリストが設定されていない試験では、試験結果に表示される値がブランク以外であればロットは合格となります。

サンプルの自動採番

品質管理システムには、試験結果の入力時にサンプルの自動採番を行う独自のシステムが用意されています。特定のサンプルの試験結果をトラッキングする場合に、サンプル番号の割り当てで自動採番が使用されるように品質管理システムを設定することができます。自動的に割り当てられた番号は、変更することも可能です。サンプルの自動採番に関する処理オプションを設定しなかった場合は、試験結果ごとにサンプル番号を入力する必要があります。

サンプルの再試験が必要な場合、新規の試験結果に対しては、既存のサンプル番号か、または新しいサンプル番号を割り当てることができます。どちらを割り当てるかは、新しいサンプルを取得したかどうかによって決まります。元のサンプルで再試験を行った場合は、その試験に同一のサンプル番号を割り当てることができます。

サードパーティシステムから外部の試験結果をロードした場合は、受け取ったデータでサンプル番号が指定されていない場合にのみ、品質管理システムによって固有のサンプル番号が割り当てられます。

注: “サンプル番号” を “サンプル数” と混同しないようにしてください。“サンプル番号” は、同一サンプル内の試験のグループを識別します (“50002” など)。“サンプル数” は、試験で採取されるサンプルの数を示します (“3” など)。

システムのインテグレーション

優先プロファイルの設定に基づき、以下のプログラムから [試験結果の改訂] フォーム (W3711B) にアクセスすることができます。

- 作業オーダー完了 (P31114)
- 作業オーダー時間入力 (P311221)
- 完了ワークベンチ (P3119)
- 出荷確認 (P4205)
- 入荷確認 (P4312)
- 入荷工程の移動/処分 (P43250)

次の表で、さまざまなプログラム機能での試験結果の使用方法を説明します。

プログラム機能	試験結果の使用方法
作業オーダー入力	作業オーダーを作成する際に、品質管理優先情報の改訂プログラム (P40318) を使用して、親品目の試験を管理できます。

プログラム機能	試験結果の使用方法
作業オーダー完了	<p>作業オーダー完了の入力で、完了数量や仕損数量などを入力する際に、以下の処理を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 完了時に試験を必要とする作業オーダーの親品目が存在する場合に、その品目の試験の改訂プログラム (P3701) にアクセスする。 作業オーダーの汎用テキストを検討する。 デフォルトのロット、作業オーダー、作業の状況に関する処理オプションを設定する。
スーパーバックフラッシュ	<p>作業オーダーで労務コストや材料のバックフラッシュを行う際に、以下の処理を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 試験が必要な親品目が存在する場合に、その品目の試験結果の入力プログラム (P3711) にアクセスする。 親品目および作業に関する汎用テキストを検討する。 <p>注: 試験結果が入力される引落点などの作業オーダー工程のステップは、ユーザーが定義します。</p>
作業オーダー時間入力	<p>作業オーダーに対して実際の作業時間や作業量を割り当てる際に、以下の処理を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 試験を必要とする作業完了済み品目の試験結果の入力プログラムにアクセスする。 親品目に関する汎用テキストを検討する。 作業オーダー状況および作業状況に関する処理オプションを設定する。 <p>注: 試験結果の入力は、作業オーダーの特定の工程のステップに対して行います。</p>
部品表改訂	<p>部品表を管理する際に、品質管理優先情報の改訂プログラムを使用して、親品目の試験を管理できます。</p>
入荷確認	<p>品目を入荷する際に、試験を必要とする品目の試験結果の入力プログラムにアクセスすることができます。</p>
入荷工程	<p>入荷工程のプロセス内で商品の所在を確認したり、別の作業への移動を行う際に、試験を必要とする品目の試験結果の入力プログラムにアクセスすることができます。</p>
受注オーダー入力	<p>受注オーダーを入力する際に、品目検索プログラム (P41200) を使用して、受注オーダーに表示される顧客や品目の品質基準を満たすロットを選択することができます。</p>

結果を入力する試験の選択

このセクションでは、試験結果を入力する機能の概要、事前設定、および結果を入力する試験の選択方法について説明します。

試験結果を入力する機能について

品目やロットに関する試験結果の入力は、品質管理システムのメニューや、製造/流通システムのさまざまなプログラムから実行することができます。製造/流通システムのプログラムから試験結果の入力プログラム (P3711) にアクセスした場合、見出し領域の情報は自動的に入力されます。オーダー見出し情報とユーザー定義による優先プロファイルに基づき、結果を入力する適切な試験セットが選択されます。

事前設定

結果を入力する試験を選択するには、試験結果の入力プログラム (P3711) であらかじめ以下の処理オプションを設定しておく必要があります。

- 結果入力フォーマット
- サンプルの自動採番の有効化
- 試験結果の検索
- 不合格ロットの状況
- 合格ロットの状況

製造作業オーダー完了時の試験結果の入力では、優先プロファイル内の少なくとも 1 つの試験に関して、[表示基準] フォーム (W40318D) の [製造完了] チェックボックスがオンになっていることを確認してください。このチェックボックスをオンにすることによって、[作業オーダー完了の詳細] フォームの [完了後に試験結果を入力] チェックボックスがオンになり、作業オーダーの数量を入力すると試験結果の入力プログラムが自動的に呼び出されるようになります。

結果を入力する試験の選択に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[試験結果の改訂]	W3711B	<p>[品質管理日次処理] (G3711)、[試験結果の入力]</p> <p>[試験結果の処理] フォームで、[検索] ボタンをクリックして試験を選択後、[選択] ボタンをクリックします。</p> <p>[試験結果の処理] フォームで、[追加] ボタンをクリックします。</p>	優先情報フォーマットで試験を選択します。
[作業オーダー完了の詳細]	W31114B	<p>[日次オーダー報告 - 組立製造] (G3112)、[オーダーの完了]</p> <p>[作業オーダー完了の処理] フォームで作業オーダーを選択し、[ロー] メニューから [改訂] を選択します。</p>	オーダー番号フォーマットで試験結果を追加します。

優先情報フォーマットでの試験の選択

[試験結果の改訂] フォームにアクセスします。

注: オーダー番号フォーマットで試験結果を初めて追加する場合は、[試験結果の入力] のメニュー オプションは使用できません。この場合、[試験結果の改訂] フォームには、入荷確認 (P4312)、出荷確認 (P4205)、作業オーダー完了 (P31114) などのオーダー処理プログラムからアクセスする必要があります。これにより、優先プロファイルから適切な試験が選択されます。

試験結果の入力 - 試験結果の改訂

OK(O) 削除(D) キャンセル(L) ロー(R) フォーム(F) ツール(T)

優先情報

サンプル数 事業所

ロットNo.

保管場所

顧客No.

品目No. Sport Drink, Lime

レコード 1 - 9 グリッドのカスタム

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	結果値	合否 (P/F)	一時 本	試験 ID	試験 記述	事業所
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="text" value="2"/>	P	0	SD-01	Compare color - Test Strip #51	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2	P	0	SD-01	Compare color - Test Strip #51	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	YES	P	0	SD-03	Verify safety seal	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	YES	P	0	SD-03	Verify safety seal	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	YES	P	0	SD-03	Verify safety seal	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	YES	P	0	SD-03	Verify safety seal	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	YES	P	0	SD-04	Verify bottles clear of debris	

[試験結果の改訂] フォーム

優先情報フォーマットで試験を選択するには、次の手順に従います。

1. 各フィールドに値を入力します。
2. [フォーム] メニューから [優先情報(R)] を選択します。
3. 以下のフィールドに値を入力して、[OK] をクリックします。
 - [結果値]
 - [試験 ID]
 - [サンプル]
 - [試験担当者]
 - [試験日付]
 - [試験時刻]

[ロットNo.] ロット番号またはシリアル番号を特定する数字を入力します。ロットとは、類似の特性を持つ品目の集合です。

[品目No.] 品目を特定する一意の番号を入力します。書式には、略式、明細、第 3 品目番号があります。

事業所固定情報プログラム (P41001) の [システム固定情報] フォームで [重複ロットの許可] の値を 2 に設定した場合は、この [品目No.] フィールドの入力は必須となります。

[保管場所]

移動する品目が保管されている場所を入力します。

[顧客No.]

(省略可) 従業員、応募者、関連会社、顧客、仕入先、テナント、所在地などの、住所録システムの項目を特定する番号を入力します。

オーダー番号フォーマットでの試験の選択

[作業オーダー完了の詳細] フォームにアクセスします。

作業オーダーの在庫完了 - 作業オーダー完了の詳細

OK(O) キャンセル(L) フォーム(F) ツール(T)

オーダーNo./タイプ記述	518125	WO	Touring Bike, Red	事業所	M30
品目No.	220		Touring Bike, Red		
現行の状況	10	オーダー検討済み		理由コード	
更新状況	10	オーダー検討済み		<input type="checkbox"/> 完了後に試験結果を入力	

数量 **ロット/保管場所**

完了日付	2004/10/26	オーダー完了率	0.00
最終完了日付			

	トランザクション数量	計量単位	数量(2次計量単位)	計量単位
完了数量		EA		
仕損数量				
オーダー数量	10.0000			
累計完了数量				
累計仕損数量				

[作業オーダー完了の詳細] フォーム

オーダー番号フォーマットで試験を選択するには、次の手順に従います。

1. [完了数量] フィールドに値を入力します。
2. [ロット/保管場所] をクリックし、ロット番号またはシリアル番号を入力します。

ロットとは、類似の特性を持つ品目の集合です。ロット管理されている品目では、ロット番号は、F4102 テーブルのロット処理タイプの設定に基づいて自動的に入力されます。

注: ロット処理タイプが 3 である場合は、ロット番号が自動的に入力されることはありません。

3. [OK] をクリックします。

[試験結果の改訂] フォームが表示されます。ロット管理されている品目の場合、見出し領域に表示される、オーダーの数量に対して生成されたロット番号を編集することはできません。

4. [試験結果の改訂] フォームで、以下のフィールドに値を入力します。

- [結果値]

- [試験 ID]
 - [サンプル]
 - [試験担当者]
 - [試験日付]
 - [試験時刻]
5. [OK] をクリックします。

試験結果の入力

このセクションでは、試験結果の概要および試験結果の入力方法について説明します。

試験結果について

試験結果を入力すると、それらの結果は自動的に処理され、収集した結果が定義した試験で合格となるかどうか判定されます。試験結果は、最小値および最大値と比較されます。続いて、ユーザーが [試験定義の改訂] フォーム (W3701A) の [試験の表示/評価] フィールドで試験に対して定義した値に基づいて、各試験の [合否] フィールドにそれぞれ値が設定されます。

各サンプルが個別に評価され、続いて、ロット状況を判定するために、試験セット全体の状況が評価されます。ロットの評価では、試験が読み込まれ、試験の評価方法を特定するために [試験の表示/評価] フィールドの値が取得されます。

[試験の表示/評価] フィールドの値を次に示します。

フィールドの値	説明
1	<p>全てのサンプルでの合格が必要です。ただし、全サンプルの数よりも小さい値を [合格数量] や [合格%] に設定してある場合は除きます。[合格数量]、[合格%] のフィールドがブランクの場合、試験の合格には、全てのサンプルの合格が必要であると見なされます。政府による規制が行われている材料で実行される試験では、全てのサンプルが一定の最低基準を満たしていることが必要となる場合があります。</p> <p>[合格数量]、[合格%] のフィールドは必須フィールドではなく、[試験の表示/評価] フィールドの値が 1 である場合にのみ使用できます。</p>
2	<p>全サンプルの平均値での合格が必要です。全てのサンプルの試験結果が加算されて、平均値が算出されます。平均値は、試験に対して定義した最小値と最大値の範囲内に収まっている必要があります。それ以外の場合は、試験全体が不合格となります。この評価方法は、回路基板生産のような、一定比率の不合格材料の発生が標準的とされる製造プロセスなどで使用します。</p>
3	<p>最終サンプルでの合格が必要です。試験に対して最後に入力を行ったサンプルが取得され、そのサンプルで合否が判定されます。そのサンプルが合格となった場合、試験全体が合格となります。この評価方法は、工程において混合材料に原料が追加され、類似した方法で品質サンプリングが実行される製造プロセスなどで使用します。混合材料の最終サンプルが許容値の範囲内である場合、製品は出荷可能とされます。</p>

評価プロセスでは、[試験定義の改訂] フォームの [合格数量] フィールドに指定した値が、試験での合格が必要なサンプルの数として使用されます。例として、色に関する試験で 4 つのサンプルを取得している状況で、[合格数量] フィールドに「2」を入力するというケースが考えられます。この場合、試験の色に関する品質検査で合格するには、2 つのサンプルでのみ合格が必要、ということになります。

評価プロセスでは、[試験定義の改訂] フォームの [合格%] フィールドに指定した値が、試験での合格が必要なサンプルのパーセンテージとして使用されます。例として、色に関する試験で 10 のサンプルを取得している状況で、[合格%] フィールドに「50」を入力するというケースが考えられます。この場合、試験の色に関する品質検査で合格するには、5 つのサンプルでのみ合格が必要、ということになります。

ロット内の全ての試験が合格水準の値を示した場合、ロット状況は、試験結果の入力プログラム (P3711) の [合格ロットの状況] 処理オプションでユーザーが入力した値に設定されます。

全サンプル、サンプル平均、最終サンプルのいずれかの条件に基づき、ロット内で試験の不合格が出た場合、ロット状況は、試験結果の入力プログラムの [不合格ロットの状況] 処理オプションでユーザーが入力した値に設定されます。不合格となった全ての試験結果は、[試験結果の改訂] フォームやその他の照会フォームなど、試験結果を含むフォームでハイライト表示されます。

強制的にロットを合格にするために [合否] の値を変更することが可能です。ただし、この機能を使用して状況を変更できるのは、正規の権限が付与されたユーザーに限定し、その他のユーザーには状況の照会のみ許可するようにセキュリティを設定する必要があります。

関連タスク

次の表は、関連タスクの一覧です。

タスク	説明
バルク積荷確認での試験の評価	試験の改訂プログラム (P3701) で指定する試験タイプによって、バルク積荷確認プロセスの実行時に試験結果を入力するかどうかが決まります。試験タイプが“必須”である場合は、合格の試験結果を入力するまでバルク積荷確認プロセスは停止します。試験タイプが“任意”である場合は、警告メッセージが表示されますが、バルク積荷確認プロセスは完了させることができます。試験タイプが“保証済み”である場合は、警告メッセージは特に表示されず、バルク積荷確認プロセスを完了させることができます。
不合格レコードの作成	試験結果の入力では、不合格となった試験を F3703 テーブルに書き込むこともできます。書き込みを行ったレコードの検討には、不合格製品プログラム (P3703) を使用します。

試験結果の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[試験結果の改訂]	W3711B	[品質管理日次処理] (G3711)、[試験結果の入力] [試験結果の処理] フォームでレコードを選択して、[選択] ボタンをクリックします。	試験結果を入力します。

試験結果の入力

[試験結果の改訂] フォームにアクセスします。

試験結果を入力するには、次の手順に従います。

1. 実行した試験の結果を [結果値] フィールドに入力します。
2. 試験 ID を入力します。
サンプルの自動採番についての処理オプションを設定しなかった場合は、[サンプル] フィールドに試験結果のサンプル番号を入力します。
3. (省略可) 変更要求を作成した試験担当者の住所番号を入力します。
この番号は、[試験担当者] フィールドで住所録に対して検証されます。
4. (省略可) 試験を実行した日付を [試験日付] フィールドに入力します。
5. (省略可) 試験を実行した時刻を [試験時刻] フィールドに入力します。

注: [試験担当者]、[試験日付]、[試験時刻] のフィールドは、処理オプションの設定で情報の更新が許可されている場合にのみ入力が可能です。日付と時刻に関するデフォルト値は変更することができます。

6. 各試験結果に関して、同様の手順を繰り返します。
ユーザーが結果を入力していない場合や試験が不合格である場合には、[結果値] フィールドはハイライト表示されます。全ての結果を一度に入力する必要はありません。ただし、試験タイプが“必須”である試験では、全てのサンプルに対して試験結果を入力しない場合、試験は不完全と見なされ、該当のロットは不合格となります。
新しい試験の入力は、空白行を使用して必要に応じて実行することができます。
7. 全ての試験結果の入力を行った後、[OK] をクリックします。
不合格の試験結果や入力が行われていない試験結果が存在するという理由で警告メッセージが表示された場合は、全てのメッセージが表示されなくなるまで [OK] ボタンをクリックします。試験タイプが“必須”である試験で結果を入力しなかった場合は、試験結果は不合格と見なされます。
各試験は個別に評価されて、合格/不合格のコードを割り当てられます。ロットの状況は、処理オプションに基づいて合格または不合格のいずれかに更新されます。
8. ロットに関して今回入力した試験結果を確認します。
試験結果は、必要に応じて改訂できます。

試験結果に関するテキストの入力

試験結果を入力した後、それらの試験結果に関する情報を含んだテキストを入力することができます。たとえば、使用した測定装置の説明などを入力することができます。[試験定義の改訂] フォームで [テキスト印刷] オプションを選択した場合、このテキストは分析証明書に印刷されます。

テキストは、試験から優先情報へ自動的にコピーされます。また、処理オプションを設定して、試験や優先情報のテキストを試験結果へコピーすることもできます。

試験状況の変更

このセクションでは、試験変更の概要および試験状況の変更方法について説明します。

試験の変更について

試験結果を入力した後で、各試験の合格/不合格の値を個別に変更することができます。たとえば、装置の誤動作や試験手順の誤りなどで試験に問題があったという理由によりロットが不合格となった場合に、ロットを使用可能にするため不合格を示す値を変更する必要があるケースなどがあります。

試験結果を変更した場合、それらの結果は、分析証明書では仕様を満たすデータ、つまり合格を示す値として印刷されます。このため、顧客には結果が元の状況から変更されたという事はわかりません。品質管理システムでは、試験結果の入力プログラム (P3711) や試験結果ワークベンチ プログラム (P37203) の [一時変更] フィールド (データ項目 TOVR) に 1 がロードされるため、変更の行われた試験結果がわかります。

この機能を使用して状況を変更できるのは、正規の権限が付与されたユーザーに限定し、その他のユーザーには状況の照会のみ許可するようにセキュリティを設定する必要があります。

試験状況の変更に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[試験結果の改訂]	W3711B	[品質管理日次処理] (G3711)、[試験結果の入力] [試験結果の処理] フォームで試験セットを選択して、[選択] ボタンをクリックします。	変更を行う試験セットを選択します。
[試験状況の改訂]	W3711C	[品質管理日次処理] (G3711)、[試験結果の入力] [試験結果の処理] フォームでレコードを検索し、選択します。[試験結果の改訂] フォームで、レコードを選択して、[ロー] メニューから [状況の一時変更] をクリックします。	試験状況を変更します。
[メディア・オブジェクト・ビューア]	該当なし	[品質管理日次処理] (G3711)、[試験結果の入力] [試験結果の改訂] フォームで行を選択して、[ロー] メニューから [添付] をクリックします。	状況の変更について説明するメモを入力します。

試験状況の変更

[試験状況の改訂] フォームにアクセスします。

試験状況を変更するには、次の手順に従います。

1. 以下のフィールドに値を入力して、[OK] をクリックします。

- [処理コード]
 - [試験状況]: P (合格) または F (不合格) のいずれかを指定します。
[試験結果の改訂] フォームの [一時変更] フィールドの値が自動的に更新されます。
2. [試験結果の改訂] フォームで、[ロー] メニューから [添付] を選択します。
 3. [メディア・オブジェクト・ビューア] フォームで、ファイル メニューから [テキスト] を選択します。
 4. 試験の状況を変更した理由を示すテキストを入力し、ファイル メニューの [保存] をクリックしてフォームを終了します。

追加サンプルの作成

このセクションでは、サンプルの概要、事前設定、および以下の方法について説明します。

- 試験結果の入力 (P3711) の処理オプションの設定
- サンプル数の変更
- 再試験用の追加サンプルの作成

サンプルについて

試験結果の入力は、最初の設定と異なるサンプル数で実行することができます。手順は、それが初めての試験結果の入力であるか、再試験後の入力であるかによって異なります。

品質管理優先情報の改訂プログラム (P40318) や試験の改訂プログラム (P3701) で、各試験に対して定義されたサンプルの数を変更することができます。変更を行う場合、[サンプル数] フィールドが表示されるように処理オプションを設定する必要があります。

注: この機能は、特定の品目やロットに対して初めて試験結果を入力する場合にのみ使用できます。2 回目以降の試験結果の入力では、[新サンプル] オプションを使用します。

品目のサンプルで品質試験を実行して結果を入力すると、再検査の目的で、追加のサンプルを作成することができるようになります。この場合、新たにロットを作成する必要はありません。

[新サンプル] オプションでは、サンプルは優先情報内の各試験で 1 つずつ作成されます。[新サンプル] オプションでは、対応する優先情報のサンプル数のデータに基づいてサンプルが作成されることはありません。

事前設定

[サンプル数] フィールドが表示されるように処理オプションを設定します。

サンプル数の変更使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[試験結果の改訂]	W3711B	[品質管理日次処理] (G3711)、[試験結果の入力] [試験結果の処理] フォームで、[追加] ボタンをクリックします。	初回の試験で使用するサンプルの数を変更します。
[試験結果の改訂]	W3711B	[品質管理日次処理] (G3711)、[試験結果の入力] [試験結果の処理] フォームで試験結果のセットを選択して、[選択] ボタンをクリックします。	再試験用の追加サンプルを作成します。

試験結果の入力 (P3711) の処理オプションの設定

処理オプションの設定により、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

試験結果

以下の処理オプションでは、試験結果のフォーマット、表示方法、記録方法を指定します。

- 1. 結果入力フォーマット**

試験結果の入力で使用するフォーマットを指定します。値は以下のとおりです。

ブランク: 優先情報フォーマットを使用します。

1: 優先情報フォーマットを使用します。このフォーマットでは、事業所と顧客番号、または事業所と品目番号に基づいて試験結果がまとめられます。

2: オーダー番号フォーマットを使用します。このフォーマットでは、作業オーダー、受注オーダー、購買オーダーのいずれかのオーダー番号に基づいて試験結果がまとめられます。

3: コンパートメント フォーマットを使用します。このフォーマットでは、積荷番号および計画デポに基づいて試験結果がまとめられます。
- 2. デフォルト検査担当**

試験担当者のデフォルトの住所番号を入力します。この処理オプションをブランクにした場合、試験担当者の住所番号を試験ごとに手動で入力する必要があります。
- 3. 最小値および最大値パラメータ**

品質評価で合格となる値の範囲を指定します。値は以下のとおりです。

ブランク: 許容最小値パラメータと許容最大値パラメータを使用します。これらは、合格となる試験結果の下限値と上限値です。

1: 優先最小値パラメータと優先最大値パラメータを使用します。これらは、推奨される試験結果の下限値と上限値です。優先最小値および優先最大値は、許容最小値と許容最大値の範囲内にある必要があります。これらの値は、顧客の要求よりも詳細で厳格な品質評価を行う際に使用します。
- 4. サンプル数フィールドの表示**

[試験結果の改訂] フォームに [サンプル数] フィールドを表示するかどうかを指定します。このフィールドは、優先プロファイルや F3701 テーブルに設定されているサンプル数を変更する場合に使用します。値は以下のとおりです。

ブランク: 表示は実行されません。

1: 表示が実行されます。

5. 汎用テキストのコピー

試験や優先情報に含まれる情報や指示を試験結果に自動的にコピーするかどうかを指定します。たとえば、試験の改訂プログラム (P3701) や顧客/品目別優先プロファイル照会プログラム (P40300) で追加された汎用テキストによって、特定の試験やカスタマイズされた試験のサンプリング方法を明示することができます。値は以下のとおりです。

ブランク: 汎用テキストはコピーされません。

1: 試験の改訂プログラムで追加された汎用テキストがコピーされます。

2: 顧客/品目別優先プロファイル照会プログラムで追加された汎用テキストがコピーされます。

6. 試験結果の検索

新しい試験結果を作成する前に重複したロット番号を自動的に検索するよう指定します。最初にロット番号を使用して試験結果の検索を実行すると、伝票番号のみで検索を実行する場合は異なり、試験の重複を回避することができます。重複したロット番号が検索されなかった場合、新しい試験結果を作成することができます。この処理オプションをブランクにした場合は、優先プロファイルを使用して、伝票番号に対して新しい試験セットが作成されます。値は以下のとおりです。

ブランク: 検索は実行されません。

1: 検索が実行されます。

7. 不合格製品の記録

品質試験で不合格となった品目を自動的に記録するかどうかを指定します。試験で不合格となった場合、不合格番号の割り当てと F3703 テーブルへの不合格の記録を自動的に実行することができます。ユーザーは全ての不合格ロットを検討して処置を割り当てます。値は以下のとおりです。

ブランク: 記録は実行されません。

1: 記録が実行されます。

8. サンプルの自動採番の有効化

ユーザーが試験結果を入力した場合に、サンプル番号を自動的に割り当てるかどうかを指定します。この処理オプションをブランクにした場合は、試験結果ごとにサンプル番号を手動で入力する必要があります。値は以下のとおりです。

ブランク: 自動的な割り当ては行われません。

1: 自動的な割り当てが行われます。

セキュリティ

以下の処理オプションを使用すると、試験に関する特定の情報を保護して、変更を防ぐことができます。

1. 日付および時刻の保護

試験日付および試験時刻を保護するかどうかを指定します。値は以下のとおりです。

1: 情報は保護されます。

ブランク: 情報は保護されません。

2. 検査担当 ID の保護

検査担当者の住所番号を保護するかどうかを指定します。値は以下のとおりです。

ブランク: 情報は保護されません。

1: 情報は保護されます。

ロット状況

これらの処理オプションでは、ロットの引当可能状況とロット状況の更新に関する設定を管理します。

1. **不合格ロットの状況** 品質試験で不合格となったロットに割り当てる状況コードを指定します。この状況のロットを出荷、販売することはできません。この処理オプションを空白にした場合、不合格ロットの出荷や販売が自動的に許可されることとなります。ロット状況コードはユーザー定義コード (41/L) となります。
2. **合格ロットの状況** 品質試験には合格したが直ちに出荷、販売することはできないロットに割り当てる状況コードを指定します。例としては、追加の承認が必要なために合格ロットが保留されるケースがあります。この処理オプションを空白にした場合、合格ロットの出荷や販売が自動的に許可されることとなります。
3. **ロット状況の更新** ロット状況の更新方法を指定します。値は以下のとおりです。
 ブランク: 在庫のロット状況を更新する前に追加の試験や承認が必要である場合に、ロット マスターの状況のみを更新します。
 1: 全てのロット保管場所で状況を更新します。ロット状況は在庫全体で更新されます。
 2: 特定のロット保管場所で状況を更新する場合に、保管場所ロット状況更新のウィンドウを表示します。

バージョン

これらの処理オプションでは、試験結果レポートのバージョンを入力することができます。バージョンによって、プログラムの情報の表示方法が制御されます。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

1. **分析証明書 (R37900)** 顧客に販売したロットに関する試験内容および試験結果を印刷するために使用する分析証明書 (COA) 抽出プログラム (R37900) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
2. **製品試験レポート (R37901)** 試験結果を印刷するために使用する製品試験レポート抽出プログラム (R37901) のバージョンを指定します。レポートは、作業オーダー、購買オーダー、ロット番号のいずれかに関する試験結果を検討する場合に使用します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
3. **試験結果のトレース (P37201)** 組立品とその構成部品、または再分類が行われた品目に関する試験結果の検討に使用する、試験結果のトレース プログラム (P37201) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
4. **試験定義の改訂 (P3701)** 使用する試験の改訂プログラム (P3701) のバージョンを指定します。バージョンによって、デフォルトの状況、およびシステムでワークフローの適用や履歴レコードの記録を実行するかどうか指定されます。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
5. **品質管理優先情報の改訂 (P40318)** 使用する品質管理優先情報の改訂プログラム (P40318) のバージョンを指定します。このプログラムは、顧客、顧客グループ、品目 (製品)、品目 (製品) グループの任意の組み合わせに対して試験や仕様のグループを指定

するプロファイルを作成する場合に使用します。この処理オプションをリンクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

サンプル数の変更

[試験結果の改訂] フォームにアクセスします。

初回の試験で使用するサンプルの数を変更するには、次の手順に従います。

1. 以下のフィールドに値を入力します。
 - [事業所]
 - [ロットNo.]
 - [品目No.]
2. [サンプル数] フィールドに試験で使用するサンプルの数を入力します。
3. 以下のフィールドに値を入力します (省略可)。
 - [保管場所]
 - [顧客No.]
4. [フォーム] メニューから [優先情報(R)] を選択します。
入力したサンプル数に基づき、各試験に対するサンプルが自動的に作成されます。
5. 不要なサンプルがある場合は、該当のサンプルを選択して [削除] をクリックします。
6. [OK] をクリックします。

再試験用の追加サンプルの作成

[試験結果の改訂] フォームにアクセスします。

再試験用の追加サンプルを作成するには、次の手順に従います。

1. [フォーム] メニューから [新サンプル] を選択します。
新しいサンプルは、各試験で 1 つずつ作成されます。新しいサンプルがさらに必要である場合は、この手順を繰り返します。
単一の試験に対して新しいサンプルを 1 つ作成する場合は、[ロー] メニューの [試験のコピー] オプションを使用することもできます。
2. 新しく作成した特定のサンプルで試験結果の入力が必要ない場合は、そのサンプルを選択して [削除] をクリックします。
3. [OK] をクリックします。

試験結果の検討

試験結果には、製品の品質の詳細なモニタリングに活用できる重要な情報が含まれています。

試験結果を検討して、次のような成果の達成に役立てることができます。

- 製品の品質に関する迅速な意思決定により、再作業や仕損にかかる多額の費用を削減する。

- 材料検査、データ収集、欠陥材料に対する再作業や修繕などに費やされる時間を最小化することにより、労務費を削減する。
- 質の低い構成部品を出荷前に識別することにより、出張作業や材料の仕損にかかる費用を削減する。
- 全体的な品質の向上と顧客満足度の向上を実現する。

外部の試験結果の処理

外部の試験結果をラボラトリ情報管理システム (LIMS) から品質管理システムにロードすることができます。外部の試験結果をワークファイル F3711Z1 にロードした後、試験結果のバッチ処理プログラム (R3711Z1I) を使用して、既存の試験定義、事業所、可否の結果と比較を行い、試験結果を編集します。このプログラムでは、ワークファイルの読み込み、結果の編集、および F3711 テーブルへのレコードの書き込みが行われます。このプログラムにアクセスするには、[品質管理インタオペラビリティ] (G37311) の [試験結果のバッチ処理] を選択します。

試験結果のバッチ処理プログラムでは、レポートの印刷も行われます。試験結果テーブル内の全てのレコードが記載されたレポートか、システムで発生したエラーが記載された例外レポートのいずれかが印刷されます。

ロット番号による試験結果の検討

このセクションでは、ロット番号による試験結果の概要と以下の方法について説明します。

- ロット番号による試験結果の検討
- 品目番号と試験 ID による試験結果の検索

ロット番号による試験結果について

在庫管理システムや受注管理システムでロットを処理する場合に、ロット番号を使用して試験結果を検索し、どのロットが品質試験で合格/不合格となっているかを確認することができます。

試験結果照会プログラム (P37204) での情報の表示方法は、アクセス方法によって以下のように異なります。

- ロット別在庫状況プログラム (P41280) またはロット マスターの改訂プログラム (P4108) を使用して在庫管理から試験結果照会にアクセスすると、入力された試験結果と完全に同一の内容が表示されます。
- 品目検索の結果数量プログラム (P40ITM2) を使用して、受注オーダー入力プログラム (P4210) から試験結果照会にアクセスすると、選択されたロットに対してオンラインでの評価が実行されます。

優先プロファイルによる試験の選択では、受注オーダー入力プログラムの顧客番号が使用されます。選択された試験は、ロットの再評価に使用されます。ロットは、製造上の仕様で検査に合格となった場合も、顧客の仕様で不合格となることがあります。

顧客番号がブランクの場合、試験の選択では、受注オーダー入力プログラムの品目番号が使用されます。

受注オーダーの入力では、次のことが可能です。

- [選択条件] で、試験 ID と試験範囲を指定して顧客の要求を満たしている品目をフィルタリングする。

- [許容最小値] フィールドと [許容最大値] フィールドの値に基づき品目を検索する。
- 品目検索の結果数量プログラムで検討を行うロットが、顧客の仕様や製造上の仕様を満たしているかどうかを判断する。
- 顧客の要求を満たしているロットを受注オーダーに追加する。
- ロットが顧客の仕様を満たしているかどうかを判断するために、品目検索の結果数量プログラムから試験結果照会プログラムにアクセスして、品目、ロット、顧客を基準に試験結果を確認する。

ロット番号による試験結果の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[試験結果照会]	W37204B	[ロット管理] (G4113)、[ロット別在庫状況] [ロット別在庫状況の処理] フォームで品目を選択して、[ロー]メニューの [試験結果] を選択します。	ロット番号により試験結果の検討を行います。
[試験済みロット検索]	W37200A	[品質管理日次処理] (G3711)、[試験済みロット検索]	特定の試験範囲に一致する在庫内の品目を検索します。

ロット番号による試験結果の検討

[試験結果照会] フォームにアクセスします。

ロット別在庫状況 - 試験結果照会

検索① 閉じる(L) ロー(R) ツール(T)

   

ロットリアルNo. 事業所

保管場所

品目番号 Sport Drink, Lime

顧客No.

オーダーNo.

レコード 1-8

一時変更	処理コード	ユーザーID	システムコード	UDC	サンプルサイズ	サンプル単位	試験タイプ	作業順序No.
0						1 LT	R	1.00
0						1 LT	R	1.00

[ロット別在庫状況 - 試験結果照会] フォーム

[一時変更]

試験が変更されているかどうかを示す値を入力します。値は以下のとおりです。

[引当可能数量]

引当可能な数量を示す数字を入力します。

たとえば、手持数量から引当数量、予約数量、バックオーダー数量を引いた数量が引当可能数量になります。

引当可能数量はユーザーが定義します。引当可能数量は、事業所固定情報プログラム (P41001) で設定できます。

試験結果のトレース

このセクションでは、試験結果のトレース プログラム (P37201) の概要とトレースの方法について説明します。

試験結果のトレース プログラム (P37201) について

試験結果のトレース プログラム (P37201) は、組立品の構成部品や再分類された品目に関する試験結果を検索する際に使用されます。購買、生産時の消費、最終的には親製品の構成要素としての販売に至る、ロットの履歴を検討することができます。

このプログラムは、ロット管理された品目の試験結果のトレースに使用します。試験結果を検索するには、[試験結果トレースの処理] フォームの見出し領域でロット番号を入力する必要があります。

試験結果のトレースに使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[試験結果トレースの処理]	W37201D	[品質管理日次処理] (G3711)、[試験結果のトレース]	試験結果のトレースを実行します。

試験結果のトレース

[試験結果トレースの処理] フォームにアクセスします。

試験結果のトレースを実行するには、次の手順に従います。

- [ビュー] メニューから [複数レベル] を選択して、下位レベルに関連付けられているロットを検討します。
- 以下のフィールドに値を入力して [検索] をクリックし、特定の品目およびロットを検索します。
 - [事業所]
 - [ロット/シリアルNo.]
 - [品目No.]
- 以下のフィールドを検討します。
 - [試験 ID]
 - [試験記述]
 - [試験値]
 - [合否 (P/F)]
 - [試験日付]

- [試験時刻]

不合格ロットの管理

試験結果の入力プログラム (P3711) で品目に不合格の評価が割り当てられた場合は、不合格製品プログラム (P3703) を使用して全ての不合格ロットを検討し、処置を割り当てます。

このセクションでは、事前設定および不合格ロットの管理方法について説明します。

事前設定

試験結果の入力プログラム (P3711) の処理オプションを設定して、不合格となった試験が F3703 テーブルに書き込まれるようにします。

不合格ロットの管理に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[不合格試験結果の改訂]	W3703C	[品質管理日次処理] (G3711)、[不合格製品] [不合格試験結果の処理] フォームでレコードを選択 して、[選択] ボタンをク リックします。	全ての不合格ロットを検討 して、処置を割り当てます。

不合格ロットの管理

[不合格試験結果の改訂] フォームにアクセスします。

不合格製品 - 不合格試験結果の改訂

不合格試験結果の処理 不合格試験結果の改訂

OK(O) 削除(D) キャンセル(L) フォーム(F) ロー(R) 前へ 次へ ツール(T)

事業所

品目 No. 4110 Concentrate, Lime Sport Dri.

ロット No. 199810010002 Concentrate, Sport Drink

保管場所

レコード 1-3

	処置	記述	オーダー No.	オーダー タイプ	試験 ID
<input checked="" type="radio"/>					SC-01
<input type="radio"/>					SC-01

[不合格試験結果の改訂] フォーム

[処置] 不合格となった試験に対して、適用されるアクションを示すユーザー定義コード (システム 37/タイプ RC) を入力します。例としては、試験で不合格となった材料で再作業を行い基準を満たすことが必要であることを示すコードなどがあります。

[オーダー No.] 当初伝票を識別する番号を入力します。当初伝票には、仕入先請求書、受注オーダー、請求書、仮受金、仕訳などの種類があります。

注: これらのフィールドでは、再作業オーダーは作成されません。これらのフィールドの主な用途は、実行する処置の記録、および関連する作業オーダーの参照です。作業オーダーは、あらかじめ F4801 テーブルに登録されていることが前提です。

優先プロファイルによる試験済みロットの検討

このセクションでは、試験結果ワークベンチ プログラム (P37203) の概要と、優先プロファイルによる試験済みロットの検討方法を説明します。

試験結果ワークベンチ プログラムについて

試験結果ワークベンチ プログラムを使用すると、特定の優先プロファイルを基準にして、全ての試験済みロットに関する試験結果を検討することができます。例としては、顧客から飲料の味について苦情が寄せられた場合に、カスタマ サービス部門の担当者が試験結果ワークベンチ プログラムを使用して飲料のロット番号と実行された試験を検討するケースがあります。

試験結果の検討では、最初に見出し領域で優先情報の入力を行います。入力された優先プロファイルに基づき、単一または複数の試験が選択され、試験結果が含まれる全てのロットが検索されます。結果をさらに絞り込むには、見出し領域でロット番号、オーダー番号、輸送積荷番号などの情報を入力します。

優先プロファイルによる試験済みロットの検討に使用するフォーム

フォーム名	フォーム ID	ナビゲーション	用途
[試験結果ワークベンチ]	W37203B	[品質管理日次処理 (G3711)、[試験結果ワークベンチ]	全ての試験済みロットに関する試験結果を検討します。
[試験結果ワークベンチの詳細]	W37203C	[試験結果ワークベンチ] フォームで、[フォーム] メニューから [結果詳細] を選択します。	試験結果を絞り込んで検討する場合にフィルタリングを行います。

優先プロファイルによる試験済みロットの検討

[試験結果ワークベンチの詳細] フォームにアクセスします。

試験結果ワークベンチ - 試験結果ワークベンチの詳細

検索① キャンセル(L) ロー(R) ツール(D)

   

優先情報 ロット 伝票

品目 No.

顧客 No.

サンプル No. ~

レコードが取り込まれていません グリッドのカスタマイズ   

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ロット/シリアル No.	ロット状況コード	保管場所	試験 ID	結果値	許容最小値
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	199810010001		..	SC-01	.81	.80
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	199810010001		..	SC-01	.80	.80
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	199810010001		..	SC-01	.81	.80
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	199810010001		..	SC-01	.79	.80
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	199810010002	Q	..	SC-01	.85	.80
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	199810010002	Q	..	SC-01	.86	.80
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	199810010002	Q	..	SC-01	.84	.80
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	199810010002	Q	..	SC-01	.84	.80
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	199810010001		..	SC-02	C04	C02
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	199810010001		..	SC-02	C04	C02
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	199810010001		..	SC-02	C04	C02
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	199810010001		..	SC-02	C03	C02
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	199810010002	Q	..	SC-02	C03	C02
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	199810010002	Q	..	SC-02	C03	C02
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	199810010002	Q	..	SC-02	C02	C02

[試験結果ワークベンチの詳細] フォーム

優先プロファイルによる試験済みロットの検討を行うには、次の手順に従います。

- [試験結果ワークベンチ] で、以下のフィールドに値を入力します。
 - [事業所]

- [品目 No.]
- 2. [顧客 No.] フィールドに値を入力し (省略可)、[検索] をクリックします。
- 3. [試験結果ワークベンチ] フォームで、試験を選択します。
- 4. [フォーム] メニューから [結果詳細] をクリックします。
- 5. [試験結果ワークベンチの詳細] フォームで、試験結果を検討します。

検索結果を絞り込むために追加の情報を設定する場合は、[優先情報]、[ロット]、[伝票] の各タブにあるフィールドを使用することができます。

付録 A

EnterpriseOne 品質管理の標準ワークフロー

この付録では、EnterpriseOne 品質管理の標準ワークフローについて説明します。

関連項目:

PeopleSoft EnterpriseOne Tools 8.95 PeopleBook: Workflow Tools

EnterpriseOne 品質管理の標準ワークフロー

このセクションでは、EnterpriseOne 品質管理のワークフローについて説明します。

試験定義承認

このセクションでは、試験定義承認ワークフローについて説明します。

説明

ワークフローの概要	ユーザーが試験定義の入力や変更を行うと、指定された承認者にワークフローメッセージが送信されます。承認者が状況をA(承認済み)に変更するまでは、試験の状況はP(保留)のままとなり、その試験を使用することはできません。
ワークフロートリガ	処理オプションのワークフローの設定が有効化されている状況での、試験定義の入力または変更。
ワークフローアクション	承認者はワークセンターでメッセージを受信して、試験定義を承認します。承認者がワークセンターで該当のメッセージを選択すると、品質管理の承認ワークベンチが表示されます。このワークベンチで、承認者は試験定義を検討し、[ロー]メニューから[承認]を選択して試験を承認します。

ワークフロー オブジェクト

システム	37
ワークフローオブジェクト名	JDEQMAPRV1
オブジェクトID	N3700070
イベント記述/関数名	F3701ProcessTestMasterData
順序/行番号	572、603、703

仕様定義承認

このセクションでは、仕様定義承認ワークフローについて説明します。

説明

ワークフローの概要	ユーザーが仕様定義の入力や変更を行うと、指定された承認者にワークフローメッセージが送信されます。承認者が状況をA(承認済み)に変更するまでは、仕様の状況はP(保留)のままとなり、その仕様を使用することはできません。
ワークフロートリガ	処理オプションのワークフローの設定が有効化されている状況での、仕様定義の入力または変更。
ワークフローアクション	承認者はワークセンターでメッセージを受信して、仕様定義を承認します。承認者がワークセンターで該当のメッセージを選択すると、品質管理の承認ワークベンチが表示されます。このワークベンチで、承認者は仕様定義を検討し、[ロー]メニューから[承認]を選択して仕様を承認します。

ワークフロー オブジェクト

システム	37
ワークフローオブジェクト名	JDEQMAPRV2
オブジェクトID	N3700100
イベント記述/関数名	F3702ProcessSpecDefinitionMast
順序/行番号	216、250、298

品質管理優先情報承認

このセクションでは、品質管理優先情報承認ワークフローについて説明します。

説明

ワークフローの概要	ユーザーが品質管理優先情報の入力や変更を行うと、指定された承認者にワークフローメッセージが送信されます。承認者が状況をA(承認済み)に変更するまでは、優先情報の状況はP(保留)のままとなり、その優先情報を使用することはできません。
ワークフロートリガ	処理オプションのワークフローの設定が有効化されている状況での、品質管理優先情報の入力または変更。
ワークフローアクション	承認者はワークセンターでメッセージを受信して、品質管理優先情報を承認します。承認者がワークセンターで該当のメッセージを選択すると、品質管理の承認ワークベンチが表示されます。このワークベンチで、承認者は優先情報を検討し、[ロー]メニューから[承認]を選択して優先情報を承認します。

ワークフロー オブジェクト

システム	37
ワークフローオブジェクト名	JDEQMAPRV3
オブジェクトID	N3700340
イベント記述/関数名	F40318UpdateQualityPreferences
順序/行番号	53

付録 B

EnterpriseOne 品質管理レポート

この付録では、品質管理レポートの概要について説明し、以下の情報を提供します。

- 品質管理の全レポートの一覧表
- 品質管理の主要レポートの詳細

品質管理のレポート

品質管理システムには、ユーザーが定義した試験、仕様、優先情報の設定方法や、品質試験の結果に関する情報を含んだ多様なレポートが用意されています。この付録で取り上げるレポートは、次の 2 つのカテゴリに分類されます。

- 設定レポート
- 試験結果レポート

設定レポートは、ユーザーが定義した試験、仕様、優先情報の設定方法に関する情報を検討する場合に使用します。以下のレポートは、設定レポートです。

- 試験定義レポート (R37410)
- 仕様レポート (R37415)
- 品目試験仕様レポート (R37420)

試験結果レポートは、分析証明書の印刷、品質試験結果の検討、およびワークシートの印刷で使用します。以下のレポートは、試験結果レポートです。

- 試験結果ワークシート レポート (R37470)
- 分析証明書抽出 (R37900)
- 製品試験レポート (R37901)

EnterpriseOne 品質管理のレポート

以下の表で、品質管理のレポートをレポート ID 順に示します。

レポート ID/レポート名	説明	ナビゲーション
R37410 試験定義レポート	ユーザーが選択した事業所に関する全ての試験が記載されます。この情報を使用して、全製品に関する品質試験の検討および管理を行います。	[品質管理セットアップ](G3741)、[試験定義レポート]
R37415 仕様レポート	ユーザーが選択した事業所に関する全ての試験仕様が記載されます。この情報を使用して、該当事業における品質仕様の検討および管理を行います。	[品質管理セットアップ](G3741)、[仕様レポート]
R37420 品目試験仕様 ("優先情報レポート"と呼ばれることもあります)	顧客、顧客グループ、品目、品目グループを基準として、ユーザーが選択した事業所に関する全ての試験仕様が記載されます。この情報を使用して、該当事業における優先プロファイルの管理および検討を行います。	[品質管理セットアップ](G3741)、[品質試験仕様] 品目試験仕様 (Item Test / Specification) のフォームにアクセスします。
R37470 試験結果ワークシートレポート ("製造仕様レポート"と呼ばれることもあります)	試験結果ワークシートを生成します。製造部門のスタッフは、このワークシートを使用して品質試験の値を試験後にシステムに入力し、トラッキングを行うことができます。	試験結果ワークシートレポート (R37470) は、製造作業オーダーでオーダー処理プログラム (R31410) を実行すると、自動的に生成されます。
R37900 分析証明書抽出	分析証明書を印刷します。顧客に販売したロットに関して実行された試験の内容と試験結果が全て表示されます。分析証明書は、顧客が追加報告を要求してきた場合に印刷します。	[品質管理日次処理](G3711)、[分析証明書 - 抽出]
R37901 製品試験レポート	ユーザーが選択した作業オーダー、購買オーダー、ロット番号のいずれかについて、全ての試験結果を検討します。この情報を使用して、オーダーの品質に関するデータを検討します。	[品質管理日次処理](G3711)、[製品試験レポート]

EnterpriseOne 品質管理の主要レポート

このセクションでは、個々のレポートについて処理オプションなどの詳細情報を説明します。説明は、レポート ID 順になっています。

試験定義レポート (R37410) の処理オプション

以下の処理オプションで、試験定義レポートのデフォルト処理を指定します。

デフォルト

1. 試験状況を入力して試験定義を選択します。

承認状況を示すユーザー定義コード (00/WS) を指定します。値は以下のとおりです。

ブランク: 有効/承認済み

- 1: 保留
- 2: 履歴
- 3: 却下

2. 基準日を入力して試験定義を選択します。

次の日付を指定します。

- 部品表で構成部品が無効になる日付
- 作業工程ステップが品目の作業工程の順序で無効になる日付
- レートスケジュールが無効になる日付。デフォルトは、データ辞書で変換世紀年として定義されているデフォルト年の 12 月 31 日です。

今後予定している変更に合わせて将来の有効日付を入力することもできます。将来的に無効になる品目も記録することができます。これらの品目は、製造原価計算、製造現場管理、能力所要量計画で認識されます。資材所要量計画システムでは、部品表の改訂レベルではなく、有効日付に基づいて有効な構成部品が特定されます。一部のフォームでは、ユーザーが入力した有効日付に基づいてデータが表示されます。

仕様レポート (R37415) の処理オプション

以下の処理オプションで、仕様レポートのデフォルト処理を指定します。

デフォルト

1. 仕様状況を入力して仕様定義を選択します。

承認状況を示すユーザー定義コード (00/WS) を指定します。値は以下のとおりです。

ブランク: 有効/承認済み

- 1: 保留
- 2: 履歴
- 3: 却下

2. 基準日を入力します。

次の日付を指定します。

- 部品表で構成部品が無効になる日付
- 作業工程ステップが品目の作業工程の順序で無効になる日付
- レートスケジュールが無効になる日付。デフォルトは、データ辞書で変換世紀年として定義されているデフォルト年の 12 月 31 日です。

今後予定している変更に合わせて将来の有効日付を入力することもできます。将来的に無効になる品目も記録することができます。これらの品目は、製造原価計算、製造現場管理、能力所要量計画で認識されます。資材所要量計画システムでは、部品表の改訂レベルではなく、有効日付に基づいて有効な構成部品が特定されます。一部のフォームでは、ユーザーが入力した有効日付に基づいてデータが表示されます。

品目試験仕様 (R37420) の処理オプション

以下の処理オプションで、品目試験仕様レポートのデフォルト処理を指定します。

印刷

印刷

特定の仕様に含まれる全ての試験を印刷するには、「1」を入力します。ブランクにすると、レポートには仕様のみが印刷されます。

デフォルト

1. 試験/仕様状況を入力して試験/仕様定義を選択します。

承認状況を示すユーザー定義コード (00/WS) を指定します。値は以下のとおりです。

ブランク: 有効/承認済み

1: 保留

2: 履歴

3: 却下

2. 基準日を入力して試験/仕様定義を選択します。

次の日付を指定します。

- 部品表で構成部品が無効になる日付
- 作業工程ステップが品目の作業工程の順序で無効になる日付
- レートスケジュールが無効になる日付。デフォルトは、データ辞書で変換世紀年として定義されているデフォルト年の 12 月 31 日です。

今後予定している変更に合わせて将来の有効日付を入力することもできます。将来的に無効になる品目も記録することができます。これらの品目は、製造原価計算、製造現場管理、能力所要量計画で認識されます。資材所要量計画システムでは、部品表の改訂レベルではなく、有効日付に基づいて有効な構成部品が特定されます。一部のフォームでは、ユーザーが入力した有効日付に基づいてデータが表示されます。

R37470 - 試験結果ワークシート レポート

このレポートには、サンプルの対象となる作業オーダーの最小値と最大値が含まれます。最小値と最大値に関する優先情報は、作業オーダーまたは顧客を基準にすることができます。顧客の試験要件を使用する場合、作業オーダーの見出し領域にその顧客の住所番号が指定されていることが必要です。顧客の住所番号は、受注オーダーから行タイプ W (作業オーダー) の作業オーダーが作成された場合に自動的に更新されます。または、作業オーダー見出しに手動で番号を入力することができます。

試験結果ワークシート (R37470) の処理オプション

以下の処理オプションで、試験結果ワークシートレポートのデフォルト処理を指定します。

印刷

印刷

優先最小値と優先最大値を印刷するには、「1」を入力します。ブランクにした場合は、許容最小値と許容最大値が印刷されます。

優先情報

優先情報

該当する受注オーダーを基準に試験の優先付けを行うには、「1」を入力します。ブランクの場合は、製造品目のみを基準に優先付けが行われます。

テキスト

テキスト

汎用テキストを印刷するかどうかを指定します。値は以下のとおりです。

ブランク: テキストは印刷されません。

1: 試験の改訂 (P3701) の汎用テキストが印刷されます。

2: 優先プロファイル (P40300) の汎用テキストが印刷されます。

R37900 – 分析証明書抽出レポート

選択したデータに基づき、該当の受注オーダー情報に関する試験結果が検索されます。トレース処理に関する処理オプションを設定した場合は、特定されたロットごとに複数レベルの試験結果が検索されます。それぞれのロットに関して全ての試験結果が印刷されます。

複数の言語による分析証明書の印刷は、関連する処理オプションの設定によって可能になります。

注: 出荷確認プログラム (P4205) の処理オプションを設定して、分析証明書を自動的に印刷することができます。

事前設定

分析証明書抽出レポートを印刷するには、事前に以下の設定を行う必要があります。

- 分析証明書に印刷する試験と汎用テキストの指定
- 分析証明書を送付する顧客の指定
- ロットのトレースに使用するトランザクション レコードのタイプの指定

分析証明書抽出 (R37900) の処理オプション

以下の処理オプションで、分析証明書抽出レポートのデフォルト処理を指定します。

デフォルト

以下の処理オプションでは、分析証明書に表示される住所や、受注オーダー上の“次の状況”コードの変更に関する設定を行います。“次の状況”コードの変更では、ユーザー定義コード テーブル (40/AT) に設定した値が使用されます。

1. 住所タイプ

分析証明書に印刷する住所のタイプを指定します。値は以下のとおりです。

ブランク: 出荷先住所

1: 出荷先住所

2: 販売先住所

3: 親住所

2. 次の状況

分析証明書が印刷されていることを受注オーダー上で示す必要がある場合に、“次の状況”コードを変更するかどうかを指定します。

“次の状況”コードを変更するには、ユーザー定義テーブルから値を入力します。

この処理オプションを空白（デフォルト）のままにした場合、“次の状況”コードは変更されません。

抽出

この処理オプションでは、分析証明書抽出レポートを再実行せずに分析証明書の再印刷を行うことを可能にするかどうかを指定します。

抽出テーブル

レポートを再実行せずに分析証明書を再印刷することを可能にするために、分析証明書抽出テーブルで履歴情報の保存を行うかどうかを指定します。たとえば、製品の受け取りに分析証明書を要求している顧客へ分析証明書を送付したが郵送時に紛失した、という場合に、再印刷が必要になることがあります。値は以下のとおりです。

空白: レポート実行の都度、分析証明書抽出テーブル内のデータは削除されます。

1: 再印刷を可能にするため、分析証明書抽出テーブル内のデータは削除されません（履歴情報が保存されます）。

トレース

この処理オプションでは、試験結果のトレースを実行するかどうかを指定します。

トレース

ロットに関する試験結果のトレースを自動的に実行するかどうかを指定します。組立品やその構成部品、再分類が行われた品目に関する試験結果を検索することができます。値は以下のとおりです。

空白: 試験結果のトレースは実行されません。

1: ロットを基準に単一レベルの試験結果のトレースが実行されます。

2: ロットを基準に複数レベルの試験結果のトレースが実行されます。

試験結果のトレースを実行しない場合、分析証明書を印刷するには、“出荷確認”の状況が割り当てられている受注オーダーで試験結果の入力を行う必要があります。

優先情報

この処理オプションでは、分析証明書に試験結果を印刷する場合に優先プロファイルを使用するかどうかを指定します。

優先プロファイル

分析証明書に試験結果を印刷する場合に、優先プロファイルを使用するかどうかを指定します。値は以下のとおりです。

空白: 試験結果の印刷に優先プロファイルは使用されません。試験結果は、合否のコードで再評価されることなく、分析証明書に印刷されます。

1: 分析証明書への試験結果の印刷に優先プロファイルが使用されます。試験結果は、優先プロファイル内の最小値/最大値を基にした合否のコードで再評価されます。

印刷

以下の処理オプションでは、印刷する分析証明書抽出レポートのバージョンを指定する他、レポートの再実行なしで分析証明書の再印刷を許可するかどうかを指定します。バージョンによって、プログラムの情報の表示方法が制御されます。

1. **分析証明書 (R37460)** 分析証明書の印刷を実行するかどうかを指定します。分析証明書には、顧客へ販売したロットに関して実行された試験の内容と試験結果が全て表示されます。印刷する分析証明書のバージョンを入力します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
2. **ユーザー定義プログラム** R37460 ではなく、ユーザーが定義した分析証明書の印刷を実行するかどうかを指定します。
定義した分析証明書の名前を入力します。この処理オプションを空白にすると、R37460 が使用されます。
3. **ユーザー定義バージョン** 印刷で使用する、ユーザーが定義した分析証明書のバージョンを指定します。ユーザーが定義した証明書を使用する場合は、この処理オプションの入力は必須です。標準の証明書を使用する場合は、この処理オプションは空白のままにします。
印刷で使用する、ユーザーが定義した証明書のバージョンを入力します。
4. **印刷言語** 分析証明書の印刷で使用する言語を指定します。値は以下のとおりです。
空白: デフォルトの言語が使用されます。
1: 顧客の指定言語が使用されます。

R37901 - 製品試験レポート

このレポートは内部で使用する目的で設計されたものですが、受注オーダーを使用することなく試験結果を分析証明書フォーマットで印刷できます。例としては、販売先が未定であり在庫として管理される品目に対して、分析証明書を印刷するというケースが考えられます。この場合、その品目を在庫に移動して販売する前に、分析証明書を同梱します。

ユーザーが選択したデータに基づき、該当のオーダー情報に関する試験結果が検索されます。トレース処理に関する処理オプションを設定した場合は、特定されたロットごとに複数レベルの試験結果が検索されます。それぞれのロットに関して全ての試験結果が印刷されます。

製品試験レポート (R37901) の処理オプション

以下の処理オプションで、製品試験レポートのデフォルト処理を指定します。

抽出

この処理オプションでは、分析証明書抽出レポート (R37900) を再実行せずに分析証明書の再印刷を行うことを可能にするかどうかを指定します。

抽出データの保持

レポートを再実行せずに再印刷を行うことを可能にするために、F37900 テーブルから抽出された情報の保存を行うかどうかを指定します。たとえば、製品の受け取りに製品試験レポートを要求している顧客へレポートを送付したが郵送時に紛失した、という場合に、再印刷が必要になることがあります。値は以下のとおりです。

空白: 情報は保存されません。レポート実行の都度、抽出テーブル内の情報は削除されます。

1: 情報は保存されます。レポート実行の都度、抽出テーブル内の情報が削除されることはありません。

トレース

この処理オプションでは、試験結果のトレースを実行するかどうかを指定します。

試験結果のトレース

ロットに関する試験結果のトレースのレベルを指定します。この処理オプションでは、組立品やその構成部品、再分類が行われた品目に関する試験結果のトレースを実行します。値は以下のとおりです。

ブランク: 試験結果のトレースは実行されません。

1: 単一レベルのトレースが実行されます。

2: 複数レベルのトレースが実行されます。

試験結果のトレースを実行しない場合、製品試験レポートを印刷するには、“出荷確認”の状況が割り当てられている受注オーダーで試験結果の入力を行う必要があります。

印刷

ユーザーが定義したレポートを実行する場合に、以下の処理オプションを使用して、レポートの名前とバージョンを指定します。

ユーザー定義レポート、 ユーザー定義バージョン

印刷で使用する、ユーザーが定義したレポートの名前とバージョンを指定します。これらの処理オプションをブランクにすると、標準の製品試験レポート (R37450) が印刷されます。

バージョン

この処理オプションでは、レポートの実行で使用するバージョンを指定します。

製品試験レポート (R37450)

製品試験レポート (R37450) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

EnterpriseOne 用語集

DNT - 変換なし	BLOB データの制約のため、iSeries サーバーに必要なデータソースのタイプです。
EnterpriseOne オブジェクト	アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネスビュー、イベントルール、バージョン、データ構造体、メディアオブジェクトなどがあります。
EnterpriseOne プロセス	EnterpriseOne クライアントと EnterpriseOne サーバーでのプロセスリクエストの処理とトランザクションの実行のためのソフトウェア プロセスです。クライアントでは 1 つのプロセスが実行され、サーバーでは 1 つのプロセスの複数のインスタンスを処理することができます。EnterpriseOne プロセスをワークフロー メッセージやデータレプリケーションなどの特定のタスク専用指定することで、サーバーが大量のタスクを処理する場合でも重要なプロセスの実行を確保することができます。
FTP サーバー	ファイル転送プロトコルを通じてファイルへのリクエストに応答するサーバーです。
IServer サービス	JD Edwards 独自のサービスです。このインターネット サーバー サービスは Web サーバーに常駐し、データベースからクライアントへの Java クラスのファイル配信を高速化するために使用されます。
Java アプリケーション サーバー	サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネントベースのサーバーです。このサーバーは、データアクセスや永続性と共に、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア サービスを提供します。
JDBNET	異種サーバー間でのデータアクセスを行うためのデータベースドライバです。
JDEBASE データベースミドルウェア	クライアント/サーバー間のアクセスとプラットフォーム非依存型の API を提供する JD Edwards 独自のデータベースミドルウェアパッケージです。
JDECallObject	ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すための API です。
JD Edwards EnterpriseOne データベース	“JDEBASE データベースミドルウェア”を参照してください。
jde.ini	EnterpriseOne の初期設定に必要なランタイム設定を提供する JD Edwards EnterpriseOne のファイル (または iSeries 用のメンバー) です。EnterpriseOne を実行する各マシンには、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーが含まれます。
JDEIPC	サーバーコードによって使用される通信プログラミング ツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制限、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。
jde.log	EnterpriseOne の主要な診断ログ ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルートディレクトリに置かれ、EnterpriseOne の起動時からの状況とエラー メッセージが書き込まれます。
JDENET	JD Edwards 独自の通信ミドルウェアパッケージです。このパッケージは、ピアツーピア、メッセージベース、ソケットベースのマルチプロセス通信用ミドルウェアソリューションです。EnterpriseOne の全てのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。
Nota Fiscal	ブラジルでは、税務処理のために全ての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。
Nota Fiscal Factura	ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う “Nota Fiscal” です。

	Nota Fiscal の説明も参照してください。
QBE	Query by Example (例示照会) の略語です。EnterpriseOne では、QBE 行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。
wchar_t	ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。
Web アプリケーション サーバー	Web アプリケーションと、バックエンドシステムおよび電子商取引に使用されているデータベースとの間のデータ交換を可能にする Web サーバーです。
Web サーバー	ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IP プロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Web サーバーでは、ブラウザからのリクエストへの対応以外にも、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理することができます。どのようなコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Web サーバーとして使用できます。
Windows ターミナル サーバー	マルチユーザー機能を持つサーバーであり、このサーバーに接続することで、それ自体では Windows ソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも Windows アプリケーションを使用することができます。全てのクライアント処理は、Windows ターミナル サーバーで集中的に実行され、画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみがネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル サーバー間で転送されます。
XAPI イベント	システム呼び出しを使用して EnterpriseOne のトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した時点での通知を要求したサードパーティソフトウェア、エンドユーザー、およびその他の JD Edwards システムを呼び出すサービスです。
XML CallObject	ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。
XML サービス	EnterpriseOne システムからイベントをリクエストし、別の EnterpriseOne システムから応答を受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。
XML ディスパッチ	EnterpriseOne で受信する全ての XML ドキュメントへの応答のための、単一のエン트리ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。
XML トランザクション	事前定義済みのトランザクションタイプを使用して EnterpriseOne にデータをリクエストしたり、EnterpriseOne からデータを受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。XML トランザクションではインターフェイステーブル機能が使用されます。
XML トランザクション サービス (XTS)	EnterpriseOne のフォーマットではない XML ドキュメントを EnterpriseOne で処理可能なフォーマットに変換するサービスです。このサービスでは、応答時に、変換されたドキュメントが元の (発信側の) XML フォーマットに戻されます。
XML リスト	EnterpriseOne データベース情報のチャンク単位でのリクエスト/受信を可能にするインタオペラビリティ機能です。
Z イベント	インターフェイステーブル機能を使用して EnterpriseOne トランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した時点での通知を要求したサードパーティソフトウェア、エンドユーザー、およびその他の JD Edwards システムに通知を提供するサービスです。
Z テーブル	EnterpriseOne 以外のデータを保存し、EnterpriseOne 用に変換することができるワークテーブルです。EnterpriseOne データの取得にも Z テーブルを使用できます。Z テーブルはインターフェイステーブルとも呼ばれます。
Z トランザクション	EnterpriseOne データベースへの更新のためにインターフェイステーブルで正しくフォーマットされたサードパーティのデータです。
アクティビティルール	フロー内でオブジェクトがあるポイントから次のポイントに進むための条件です。

アプリケーション一時変更	代替的なデータ辞書項目の記述であり、現在のオブジェクトのシステムコードに基づいて EnterpriseOne や World で表示されます。
アプリケーション サーバー	ネットワーククライアントに共有されるアプリケーションを含む、ローカルエリアネットワーク内のサーバーです。
イベントルール	フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行される操作に基づく処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。
イベントルールビジネス関数 (NER)	C 言語ではなく、イベントルールを使用して作成され、カプセル化された再利用可能なビジネスロジックです。イベントルールビジネス関数は、“NER”とも呼ばれます。NERは、複数のプログラムの複数の場所で再利用することができます。このモジュラー性の高さによって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。
インターフェイステーブル	“Zテーブル”を参照してください。
インタオペラビリティモデル	サードパーティシステムから EnterpriseOne への接続やアクセスを行うための機能です。
インテグレーション サーバー	コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、各種のオペレーティングシステムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。
埋め込みイベントルール	特定のテーブルやアプリケーションのためのイベントルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。“イベントルールビジネス関数”とは機能的に対照を成すルールです。
エスカレーション モニター	処理待ちのリクエストや活動を監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過すると、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチプロセスです。
エラー表示の有効化	EnterpriseOne におけるフォームレベルのプロパティであり、有効時にはアプリケーションエラーのエラーメッセージがフォーム上に表示されます。
エンタープライズ サーバー	EnterpriseOne や World のデータベースとロジックを格納するサーバーです。
オープン データ アクセス (ODA)	データの集計とレポートの作成のために、SQL ステートメントを使用して EnterpriseOne のデータを抽出することができるインタオペラビリティモデルです。
オブジェクト構成マネージャ (OCM)	EnterpriseOne では、ランタイム環境のオブジェクトリクエストブローカーおよび制御センターとして機能します。OCMによって、ビジネス関数、データ、バッチアプリケーションのランタイムロケーションを追跡します。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCMでは、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセス先が指定されます。
オブジェクトライブラリアン	アプリケーションのビルドに再利用可能な全てのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクトライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、EnterpriseOne オブジェクトの作成、変更、使用の制御も行われます。オブジェクトライブラリアンは複数の環境(生産環境や開発環境など)に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動することができます。
オブジェクトライブラリアン マージ	前のリリースでオブジェクトライブラリアンに加えられた全ての変更を新規リリースのオブジェクトライブラリアンに統合するプロセスです。
オフライン機能	サーバーと接続されていないユーザーがトランザクションを入力し、後にサーバーに接続してそれらのトランザクションをアップロードすることができる処理モードです。

拡張プランニング エージェント (APAg)	業務データの抽出、加工、読み込みに使用できる EnterpriseOne のツールです。APAg は、リレーショナル データベース、フラットファイル フォーマットおよび XML のような他のデータまたはメッセージ エンコーディング 形式によるデータソースへのアクセスをサポートしています。
活動	EnterpriseOne の Form Design Aid で使用される、スケジュール機能をもつエンティティであり、カレンダー上で指定した時間の量を表します。
仮定処理	取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で入力されたように、取引の金額を表示することができる処理です。
環境ワークベンチ	インストール ワークベンチ プロセスの実行時に、各環境の環境情報とオブジェクト構成マネージャテーブルを、プランナ データソースからシステム リリース番号のデータソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。
期間パターン	標準の会計処理と 52 期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。
基準日処理	ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、日付を指定して EnterpriseOne の各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や金額を確認することができます。
計画ファミリ	設計と製造に類似点があるため、まとめて計画することが合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。
原価要素	EnterpriseOne 製造管理において、特定の品目 (資材費、人件費、間接費など) の原価の一要素を表します。
コスト割当	EnterpriseOne 収益性分析のプロセスであり、リソースのトレースや、活動やコストオブジェクトへの配賦に使用されます。
コネクタ	EnterpriseOne とサードパーティアプリケーションの間でのロジックとデータの共有を可能にするコンポーネントベースのインタオペラビリティ (相互運用) モデルです。EnterpriseOne コネクタアーキテクチャには Java コネクタと COM コネクタが含まれています。
コントロールテーブル マージ	顧客が変更したコントロールテーブルを新規リリースのデータに統合するプロセスです。
コントロールテーブルワークベンチ	インストール ワークベンチの処理中に、プランで指定したデータ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー時変更テーブルを更新するバッチアプリケーションを実行するアプリケーションです。
サーバーワークベンチ	インストール ワークベンチ プロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ データソースからシステム リリース番号データソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。
差異	<p>キャピタルアセット マネジメントでは、1 つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した原価の差を意味します。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne プロジェクト原価管理と JD Edwards EnterpriseOne 製造管理では、同じ品目に対する 2 つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差は設計差異です。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。</p>
最終モード	データレコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードのレポート処理モードの 1 つです。
作業日カレンダー	JD Edwards EnterpriseOne 製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。稼働可能な日数に基づいて構成部品と作業指示のスケジュールを設定

	できるように、このカレンダーには作業日のみが連続的に表示されます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。
差し込み印刷ワークベンチ	業務文書を自動的に印刷するために、Microsoft Word 6.0(またはそれ以上のバージョン)の文書とEnterpriseOneのレコードをマージするアプリケーションです。雇用の証明に関する書式などの文書の印刷に、差し込み印刷ワークベンチを使用することができます。
サブスクリバテーブル	F98DRSUB テーブルを指しています。このテーブルは F98DRPUB テーブルと共にパブリッシュサーバーに置かれ、各パブリッシュ済みテーブルの全てのサブスクリバマシンの識別に使用されます。
3方向伝票突合せ	EnterpriseOne 調達管理および外注管理で、入荷情報と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。3方向突合せでは、入荷レコードを使用して伝票を作成します。
施設	原価のトラッキング対象となる業務の単位の1つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワークセンター、事業所などがあります。施設は、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
指定通貨	会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。
従業員ワークセンター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含む全ての EnterpriseOne メッセージを送受信するための中心のロケーションです。各ユーザーには、アクティブメッセージなど、ワークフローやその他のメッセージを含むメールボックスが割り当てられます。
出力ストリーム アクセス (OSA)	EnterpriseOne のインターフェイスを設定し、別のソフトウェアパッケージ (Microsoft Excel など) にデータを渡して処理を実行することができるインタオペラビリティモデルです。
処理オプション	このデータ構造によって、ユーザーはバッチ プログラムやレポートの実行を制御するパラメータを指定することができます。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィールドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などがあります。
スペック	EnterpriseOne オブジェクトの完全な説明です。各オブジェクトには固有の仕様またはアプリケーションのビルドに使用される名称があります。
スペックテーブル マージ ワークベンチ	インストール ワークベンチ プロセスの実行時に、スペックテーブルを更新するバッチ アプリケーションを実行するアプリケーションです。
スペック マージ	オブジェクトライブラリアン マージ、バージョンリスト マージ、およびセントラルオブジェクト マージで構成されるマージ機能です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合することができます。
スポットレート	トランザクションレベルで入力される為替レートです。このレートは、2つの通貨の間に設定されている為替レートより優先されます。
3ステップ処理	EnterpriseOne でのバッチトランザクションの入力、検討と承認、転記のタスクを指します。
整合性テスト	社内の貸借一致手順を補足するために使用するプロセスであり、問題のある残高情報やデータ不整合の特定とレポート作成を行うことができます。
セグメント間編集	コンフィギュレーション品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能のコンフィギュレーションのオーダーを防ぐことができます。
選択	メニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して Enter キーを押します。

セントラルオブジェクト マージ	現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、次の(新規の)リリースのオブジェクトに統合する処理です。
セントラル サーバー	クライアントマシンに配布されるソフトウェアの、最初にインストールされたバージョン(セントラルオブジェクト)の格納用に指定されたサーバーです。EnterpriseOne の典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン(セントラルサーバー)にロードされます。次に、セントラルサーバーにつながっている各種のワークステーションに向けてソフトウェアのコピーがプッシュアウトされます(またはワークステーションからダウンロードされます)。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損した場合には、常にセントラルサーバー上にある変更前のオブジェクトのセット(セントラルオブジェクト)にアクセスすることができます。
相殺/仮勘定	EnterpriseOne Financial Management の一般会計勘定科目であり、仕訳入力 of 相殺(貸借一致)処理に使用されます。たとえば、相殺/仮勘定を使用して、EnterpriseOne 一般会計の配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行うことができます。
即時バッチオブワン	処理をクライアントワークステーション上で実行してから、後続の処理のために全てを一度にサーバーアプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアントアプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。 “ダイレクト接続”と“オフライン処理”も参照してください。
ターミナルサーバー	このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク、ホストコンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続することができます。
代替通貨	取引通貨(国内のみの取引の場合は国内通貨)として指定した通貨と異なる通貨です。 EnterpriseOne Financial Management では、代替通貨を使用して、領収書や支払の入力を発行時と異なる通貨で行うことができます。
ダイレクト接続	クライアントアプリケーションとサーバーアプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “即時バッチオブワン”、“オフライン処理”の説明も参照してください。
チャート	EnterpriseOne の情報の表形式の表示であり、ソフトウェアのフォームに表示されます。
追加モード	ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。
通貨再換算	通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にはレポートに使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、さまざまな通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応することができます。
突き合わせ伝票	取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、EnterpriseOne Financial Management では、入金請求書の突き合わせ伝票であり、支払が支払伝票の突き合わせ伝票です。
データソースワークベンチ	インストールワークベンチの処理中に、インストールプランに定義された全てのデータソースを、プランナのデータソースに含まれるデータソースマスターとテーブル/データソースサイジングテーブルから、システムのリリース番号のデータソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データソースプラン詳細レコードも更新されます。
データベースサーバー	データベースの管理やクライアントマシンの検索を実行するローカルエリアネットワーク内のサーバーです。

テーブルアクセス管理 (TAM)	ユーザー定義データの保存と取得を処理する EnterpriseOne コンポーネントです。TAMには、データ辞書定義、アプリケーション/レポートスペック、イベントルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。
テーブルイベントルール	データベーストリガに添付されるロジックであり、トリガに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。EnterpriseOne では、イベントルールをアプリケーションイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有です。テーブルイベントルールでは、テーブルレベルでの埋め込みロジックを提供します。
テーブル変換	EnterpriseOne と、EnterpriseOne 以外のテーブルを使用するサードパーティシステムとの間でデータ交換を行うためのインタオペラビリティモデルです。
テーブル変換ワークベンチ	EnterpriseOne と、EnterpriseOne 以外のテーブルを使用するサードパーティシステムとの間でデータ交換を行うためのインタオペラビリティモデルです。
デプロイメントサーバー	複数のエンタープライズサーバーとクライアントマシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。
電子データ交換 (EDI)	EnterpriseOne システムとサードパーティシステムの間で、コンピュータ間の業務トランザクションデータの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティモデルです。EDIを使用する会社は、EDI標準フォーマットからその会社のシステムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。
トランザクション処理 (TP) モニター	ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、TP モニターによって、分散環境でのデータの整合性が守られます。TP モニターには、データの検証と端末画面のフォーマットのプログラムが含まれる場合もあります。
トランザクションセット	複数のセグメントで構成されている電子的ビジネストランザクション(電子データ交換標準ドキュメント)です。
トリガ	データ辞書項目に固有の複数のイベントの1つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるデータ辞書項目にロジックを添付することができます。
トリガイベント	特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済みの、特定のワークフローイベントです。
2重価格設定	商品やサービスに2つの通貨で価格を設定するプロセスです。
2方向伝票突合せ	EnterpriseOne 調達管理および外注管理で、購買明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録しません。
バックツールバックプロセス	EnterpriseOne ワークフロー管理で使用されるプロセスであり、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれています。
パッケージ	EnterpriseOne オブジェクトは、デプロイメントサーバーからのパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージは、部品表やキットに例えることができ、ワークステーションに必要なオブジェクトと、インストールプログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようにデプロイメントサーバー上の位置情報を含んでいます。パッケージは、デプロイメントサーバー上のセントラルオブジェクトの特定時点のスナップショットでもあります。
パッケージビルド	ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの既存ユーザーへの反映を容易に行うことができるソフトウェアアプリケーションです。また、EnterpriseOne では、パッケージビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済みバージョンを指す場合もあります。たとえば、使用中の ERP ソフトウェアのアップグレード時に、パッケージビルドの実行を指示されたとします。

	<p>“パッケージビルド”という用語について、以下のコンテキストを検討してください。“パッケージビルド時に実行されるビジネス関数のグローバルビルドでは新規の関数が自動的に含まれるため、配布の準備が整うまでビジネス関数を本稼働用パスコードに転送しないでください。”このように、パッケージビルドを作成するプロセスが“パッケージビルド”と呼ばれる場合もあります。</p>
パッケージロケーション	<p>パッケージとそのパッケージのレプリケート(複製)オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、<code>¥deployment server¥release¥path_code¥package¥package name</code>に置かれます。このパスの下のサブディレクトリに、パッケージ用のレプリケートオブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。</p>
パッケージワークベンチ	<p>インストールワークベンチプロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナデータソースからシステムリリース番号データソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージプラン詳細レコードも更新されます。</p>
バッチサーバー	<p>バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチサーバーにデータベースは格納されず、対話型アプリケーションも実行されません。</p>
バッチ処理	<p>サードパーティシステムから EnterpriseOne にレコードを転送する処理です。</p> <p>EnterpriseOne Financial Management では、バッチ処理を使用して、EnterpriseOne 以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータを EnterpriseOne 売掛管理や EnterpriseOne 買掛管理のシステムに転送することができます。また、顧客レコードや仕入先レコードを含む住所録情報を EnterpriseOne に転送することも可能です。</p>
パブリッシャ	<p>パブリッシュされたテーブルを受け持つサーバーです。F98DRPUB テーブルでは、企業内の全てのパブリッシュ済みテーブルとそれらに関連付けられたパブリッシャの識別が行われます。</p>
パブリッシュされたテーブル	<p>マスターテーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシャマシンに格納される F98DRPUB テーブルにより、企業内の全てのパブリッシュされたテーブルとそれらに関連付けられたパブリッシャが識別されます。</p>
バージョンリストマージ	<p>バージョンリストマージを実行すると、新規リリースにおいて有効なオブジェクトとそれらの処理オプションデータの、非 XJDE および非 ZJDE バージョンの仕様が維持されます。</p>
ビジネス関数	<p>ユーザーによって作成される命名済みの再利用可能なビジネスルールとログのセットであり、イベントルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数では、トランザクションやそのサブセット(在庫チェック、作業オーダーの発行など)を実行することができます。また、ビジネス関数には API も含まれているため、フォーム、データベーストリガ、または EnterpriseOne 以外のアプリケーションからも呼び出すことができます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベントルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成することができます。ビジネス関数の作成には、イベントルール、または C などの第 3 世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、Credit Check (与信チェック) や Item Availability (在庫照会) が挙げられます。</p>
ビジネスビュー	<p>アプリケーションやレポートでデータが使用されている複数の EnterpriseOne テーブルから特定の列を選択するための手段として使用される機能です。ビジネスビュー自体には特定の行を選択する機能はありません。また、ビジネスビューには実際のデータは含まれていません。ビジネスビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作することができます。</p>
ビジュアルアシスト	<p>ユーザーがコントロールに属するデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。</p>

ファイル サーバー	ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。ユーザーにはリモート ディスクドライブとして表示されるディスクサーバーと異なり、ファイル サーバーには、単にファイルを保存するだけでなく、保存しているファイルを管理し、要求をユーザー リクエスト ファイルとして維持して、それらのファイルの更新も行う高度な機能が備えられています。
プリステイン環境	EnterpriseOne のデモ データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用する EnterpriseOne 環境です。研修環境にも使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要です。
プリント サーバー	ネットワークとプリンタの間のインターフェイスであり、ネットワーククライアントはこれを利用してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信することができます。コンピュータ、独立したハードウェア デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアでもプリンタサーバーとして使用することができます。
プルレプリケーション	データを個別のワークステーションにレプリケートする方法の1つです。プルレプリケーションのレプリケーション先のマシンは、EnterpriseOne のデータレプリケーション ツールを使用して、プル サブスクライバとしてセットアップされます。プル サブスクライバに変更、更新、削除が通知されるのは、その情報を要求した場合のみです。要求は、通常は起動時に、プル サブスクライバから F98DRPCN テーブルが置かれているサーバーにメッセージの形式で送信されます。
プロキシサーバー	企業などがセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。
プログラム一時修正 (PTF)	磁気テープやディスクで提供される、JD Edwards ソフトウェアの変更です。
プロジェクト	EnterpriseOne で使用される、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナです。
プロモーション パス	ワークフロー内でオブジェクトやプロジェクトが進む、指定された工程です。標準的なプロモーション サイクル (パス) は以下のとおりです。 11>21>26>28>38>01 このパスでは、11 は検討待ちの新規プロジェクト、21 はプログラミング、26 は品質管理テスト/検討、28 は品質管理テスト/検討の完了、38 は本稼働、01 はサイクルの完了を表します。標準的なプロジェクト プロモーション サイクルの工程内で、開発者は、開発パスコードからオブジェクトをチェックアウトし、チェックインしてから、それらのオブジェクトをプロトタイプ パスコードにプロモートします。次に、オブジェクトは、工程の完了の前に、本稼働用のパスコードに移されます。
編集コード	レポートやフォームの特定の値がどのように表示/フォーマットされるかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。
編集モード	ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。
編集ルール	ユーザー入力を事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。
補足データ	マスターで管理されない全ての情報のタイプを指す用語です。補足データは、通常、従業員、応募者、購買要求、作業 (従業員の技能、取得学位、語学力など) に関する追加情報です。補足データを使用して、組織が要求するあらゆる情報を追跡管理することができます。 たとえば、標準のマスター (住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター) とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理することができます。このような汎用データベースを使用すると、EnterpriseOne システム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。
本稼働用環境	ユーザーが EnterpriseOne ソフトウェアを実務使用する EnterpriseOne 環境です。

本稼働レベルファイル サーバー	通常はユーザー サポート サービスと共に提供される、品質保証付きの商品化されたファイル サーバーです。
マスターテーブル	“パブリッシュされたテーブル”を参照してください。
マスタービジネス関数 (MBF)	データベース内の情報の追加、変更、更新のための中心のロケーションとして機能する対話型のマスターファイルです。マスタービジネス関数によって、データ入力フォームとテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター関数によって、全ての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セットが、関連するプログラムに提供されます。MBFには、データベースの情報の追加、更新、削除の整合性を確保するロジックが含まれています。
見出し情報	テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、後続のレコードグループの制御情報が識別または提供されます。
見積オーダー	EnterpriseOne 調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストであり、そこから購買オーダーを作成できます。 EnterpriseOne 受注管理では、受注オーダーに対してまだ引当を行っていない顧客の品目情報と価格情報を指します。
明細情報	たとえば、伝票支払品目や受注オーダー明細行など、EnterpriseOne のトランザクションの個別の行に関連する情報です。
メッセージアダプタ	サードパーティシステムから EnterpriseOne に接続し、メッセージング キューを使用したデータの交換を行うためのインタオペラビリティモデルです。
メッセージセンター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含む全ての EnterpriseOne メッセージを送受信するための中心のロケーションです。
メッセージング サーバー	メッセージング APIを使用して、他のプログラムで使用するために送信されるメッセージを処理するサーバーです。メッセージング サーバーには、通常、関数を実行するためにミドルウェアプログラムが配備されます。
メディアストレージオブジェクト	テーブルフォーマットにまとめられていない、Gxxx、xxxGT、または GTxxx のいずれかの命名規則を使用するファイルです。
ユーザー一時変更のマージ	新規のユーザー一時変更レコードを顧客のユーザー一時変更テーブルに追加するプロセスです。
優先プロファイル	品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層(順序)に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。
用語一時変更	特定の EnterpriseOne または World のフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的な説明です。
リアルタイム イベント	システム呼び出しを使用して EnterpriseOne のトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した時点での通知を要求したサードパーティソフトウェア、エンドユーザー、およびその他の JD Edwards システムに通知を提供するサービスです。
リフレッシュ	EnterpriseOne ソフトウェアまたはそのサブセット(テーブルや業務データなど)を、新規リリースや PTF/Cum アップデートリリース(B73.2 や B73.2.1 など)に正しく対応させるための変更機能です。
略式コマンド	特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンドプロンプト機能です。
レプリケーション サーバー	セントラル オブジェクトのクライアント マシンへのレプリケーションを受け持つサーバーです。

ロケーションワークベンチ	インストールワークベンチプロセスの実行時に、インストールプランに定義された全てのロケーションを、プランナデータソースの保管場所マスターからシステムデータソースにコピーするアプリケーションです。
ロジックサーバー	アプリケーションプログラムにビジネスロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティンオブジェクトは、セントラルサーバーからロジックサーバーに複製されます。EnterpriseOneやWorldソフトウェアの実行時に、ロジックサーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。
ワークグループサーバー	マスターネットワークサーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループサーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。
ワークフロー	ビジネスプロセスの一部または全体の自動化を意味する用語です。自動化されたプロセス(ワークフロー)の実行時には、ドキュメント、情報、タスクは、手順規則に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。
ワークベンチ	関連のあるプログラムのグループに対する1つのエン트리ポイントからのアクセスを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne 支払サイクルワークベンチ(P07210)を使用して、給与計算、支払レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用される全てのプログラムにアクセスすることができます。EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ(P90CD020)、ラインスケジューリングワークベンチ(P3153)、計画ワークベンチ(P13700)、監査人ワークベンチ(P09E115)、支払サイクルワークベンチなどが用意されています。

索引

Customer Connection Web サイト x
[EnterpriseOne システム制御 - 改訂]
フォーム 10
F3701 テーブル 7
F37021 テーブル 7
F3702 テーブル 7
F3703 テーブル 7, 47
F3711Z1 テーブル 7
F3711 テーブル 7
F37900 テーブル 7
F40318R テーブル 7
F40318 テーブル 7
F4102 テーブル 45
JD Edwards EnterpriseOne アプリケー
ションの基礎 ix
MMA Partners x
P03013 プログラム 35
P31114 プログラム 38, 40, 45
P311221 プログラム 38, 40
P31123 プログラム 38
P3119 プログラム 40
P3701 プログラム
処理オプション 13
用途 30
P3702 プログラム
処理オプション 20
用途 30
P37111W プログラム 49
P3711 プログラム
処理オプション 51
用途 54
P37201 プログラム 58
P37202 プログラム 33
P37203 プログラム 61
P40318 プログラム
承認プロセス 30
処理オプション 24
用途 25
P4205 プログラム 38, 40
P4312 プログラム 38, 40
P43250 プログラム 38, 40
PeopleBook
注文 x
PeopleCode の表記規則 xii
R31410 プログラム 38

R37410 レポート
処理オプション 68
用途 68
R37415 レポート
処理オプション 69
用途 68
R37420 レポート
処理オプション 70
用途 68
R37470 レポート
処理オプション 70
用途 68, 70
R37900 レポート
処理オプション 71
用途 68, 71
R37901 レポート
処理オプション 73
用途 68, 73

あ

アプリケーションの基礎 ix

い

印刷・製本されたドキュメンテーション x
インテグレーション
在庫管理 2
受注管理 2
製造現場管理 2
調達管理 2

お

オーダー処理プログラム (R31410) 38
オーダー番号フォーマット 39

か

改訂
却下 31
承認 31
改訂レベル 31
外部の試験結果
試験結果のバッチ処理プログラム
(R3711Z1I) 55
ラボラトリ情報管理システム (LIMS) 55
完了ワークベンチ プログラム (P3119) 40
関連ドキュメンテーション x

き

共通フィールド xiv, xix

く

組み込み規則
 試験結果のトレース 34
 設定 34
 グローバルな手順 3

け

警告 xiii
 結果を入力する試験 42

こ

ご意見 xiv
 合格ロット 39
 顧客請求指示 34
 [顧客マスターの改訂] フォーム 35
 [顧客マスターの処理] フォーム 35
 ご要望 xiv
 コンパートメント番号フォーマット 39

さ

在庫管理 2
 再試験 54
 再試験用のサンプル 50
 [作業オーダー完了の詳細] フォーム 43, 45
 [作業オーダー完了の処理] フォーム 45
 作業オーダー完了プログラム (P31114) 38, 40
 作業オーダー時間入力プログラム (P311221) 38, 40
 サンプル 50
 サンプルの数
 初回試験に対する変更 50
 表示 50
 サンプルの自動採番 40
 サードパーティによる試験結果 55

し

事業所固定情報 10
 [事業所固定情報] フォーム 10
 事業所品目テーブル (F4102) 45
 試験
 結果入力での選択 42
 定義 12
 試験結果
 印刷 73

オーダー番号フォーマット 39
 外部 55
 業務上の必要 54
 コンパートメント番号フォーマット 39
 サンプルの自動採番 40
 試験結果について 46
 試験結果の検討 55
 試験結果の処理 37
 試験の選択 42
 試験の評価 46
 受注オーダー入力プログラム (P4210) 55
 処理 37, 38
 処理する機能 37
 テキストの入力 48
 トレース 58
 入力 46
 入力フォーマット 38
 任意の書式での入力 39
 品目番号と試験 ID による検索 57
 不合格 47
 優先情報フォーマット 39
 優先プロファイルによる検討 60
 ロット番号による検討 55
 ロットマスターの改訂 55
 [試験結果照会] フォーム 56
 試験結果テーブル (F3711) 7
 [試験結果トレースの処理] フォーム 58
 [試験結果の改訂] フォーム 43, 47, 48, 49, 51, 54
 試験結果の処理 37
 試験結果のトレース 34, 58
 試験結果のトレース プログラム (P37201) 58
 試験結果の入力 38
 試験結果の入力プログラム (P3711)
 処理オプション 51
 用途 54
 試験結果未編集トランザクション テーブル (F3711Z1) 7
 試験結果ワークシート レポート (R37470)
 処理オプション 70
 用途 68, 70
 [試験結果ワークベンチの詳細] フォーム 61
 [試験結果ワークベンチ] フォーム 61
 試験/仕様 33
 試験状況
 改訂 49
 変更 47, 49

[試験状況の改訂] フォーム 49
 試験/仕様の使途先プログラム
 (P37202) 33
 試験、仕様、優先情報の改訂 32
 試験済みロット 60
 [試験済みロット検索] フォーム 56, 57
 [試験定義の改訂] フォーム 14, 32
 [試験定義の処理] フォーム 12
 試験定義マスター ファイル テーブル
 (F3701) 7
 試験定義レポート (R37410)
 処理オプション 68
 用途 68
 試験の改訂 31
 試験の改訂プログラム (P3701)
 処理オプション 13
 用途 30
 試験の変更 49
 システム概要 1
 システム設定 9
 システムのインテグレーション 40
 従業員ワークセンター 31
 受注オーダー入力 55
 受注管理 2
 出荷確認プログラム (P4205) 38, 40
 仕様
 概要 19
 定義 19
 分割 23, 30
 仕様/試験 33
 仕様詳細ファイル テーブル (F37021) 7
 仕様定義マスター ファイル テーブル
 (F3702) 7
 承認プロセス 30
 仕様の改訂 31
 [仕様の改訂] フォーム 20, 21
 仕様の改訂プログラム (P3702)
 処理オプション 20
 用途 30
 情報の確認 6
 仕様レポート (R37415)
 処理オプション 69
 用途 68
 [新サンプル] オプション 54

す

スーパー バックフラッシュ プログラム
 (P31123) 38

せ

製造現場管理 2
 製品概要 1
 製品サマリ 1
 製品試験レポート (R37901)
 処理オプション 73
 用途 68, 73
 前提知識 ix

そ

相互参照 xiii

ち

注 xii
 注意事項 xii
 調達管理 2

つ

追加サンプル 50
 再試験 54
 作成 54
 追加ドキュメンテーション x

と

導入の手順
 グローバル 3
 品質管理 4
 ドキュメンテーション
 印刷・製本 x
 関連 x

に

入荷確認プログラム (P4312) 38, 40
 入荷工程の移動/処分プログラム
 (P43250) 38, 40
 任意の書式での入力 39

は

バルク積荷確認 47
 汎用テキスト 6

ひ

表記規則 xii
 表示基準 28
 標準ワークフロー 63
 品質管理
 試験 5
 試験結果 6
 システム概要 1

仕様 5
 製品固有の導入手順 4
 設定 9
 特徴 5
 汎用テキスト 6
 品質管理について 5
 有効化 10
 優先プロファイル 5
 レポート 67

[品質管理承認ワークベンチ] フォーム 33

品質管理の有効化 10

[品質管理優先情報の改訂] フォーム 26

品質管理優先情報の改訂プログラム (P40318)

承認プロセス 30

処理オプション 24

用途 25

品質管理優先マスター レコード 25

品目試験仕様レポート (R37420)

処理オプション 70

用途 68

品目番号 57

ふ

不合格材料テーブル (F3703) 7, 47

[不合格試験結果の改訂] フォーム 59, 60

不合格の試験結果 47

不合格レコード 47

不合格ロット 39, 59

不合格ロットの管理 59

分析証明書 34

分析証明書 (COA) 抽出テーブル (F37900) 7

分析証明書抽出レポート (R37900)

処理オプション 71

用途 68, 71

め

[メディア・オブジェクト・ビューア] フォーム 49

ゆ

優先情報処理元帳 - 品質管理テーブル (F40318R) 7

優先情報の改訂 31

優先情報フォーマット

試験結果 39

試験の選択 43

優先情報フォーマットでの試験 43

優先プロファイル

試験済みロットの検討 60

設定 22

優先プロファイルによる試験済みロット 61

優先プロファイル - 品質管理テーブル (F40318) 7

[優先マスターの処理] フォーム 25

ユーザー定義コード 19

れ

連絡先 xiv

ろ

ロット

不合格ロットの管理 59

優先プロファイルによる試験済みロットの検討 60

ロット状況

合格ロットと不合格ロット 39

処理オプションの設定 39

ロットの在庫状況 55

ロット番号 55

ロット番号による試験結果 55

わ

ワークフロー

試験定義承認 63, 64

仕様定義承認 64

説明 63

品質管理優先情報承認 64

ワークフロー承認プロセス 30